


インフロニア・ホールディングス  
25年3月期 第2四半期 アナリスト向け決算説明会



November 12, 2024

1. 経営環境認識
2. 決算サマリー
3. 資本戦略・還元方針  
／FY24 2Q時点の実績と通期見通し
4. インフロニア・ホールディングスの業績数値  
【推移・前年比】
5. セグメント別 業績数値の前年比
6. 手持工事高、受注高、受注時利益率の推移  
【建築、土木セグメント】
7. FY24一般管理費 増減の主な要因
8. 連結貸借対照表の主な増減の要因
9. 資本戦略と株価の推移
10. 社債型種類株式の財務指標等への影響

= Appendix =

### セグメント別 ハイライト（個別）



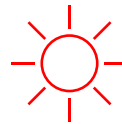

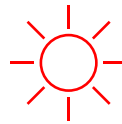

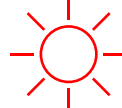


1. 建築セグメント
2. 土木セグメント
3. インフラ運営セグメント
  1. 前田建設工業
  2. 日本風力開発
4. 舗装セグメント
5. 機械セグメント

### FY24 2Q実績とFY24通期計画

1. 前田建設工業
2. 前田道路
3. 前田製作所
4. 日本風力開発
5. 主なグループ会社

### 補足資料

## 市場環境や受注環境、資材価格等に関する当社の認識、対応

セグメント	市場	当社の状況	市場認識と当社の取組み
建築			<p><b>市場</b>：建設投資額は増加傾向だが、物価上昇に伴う建築コスト高騰の影響が大きい。着工床面積で見るとほぼ横ばい</p> <p><b>当社</b>：設備・電気工事会社の労務不足が顕著であるものの、協力会社の見通しをつけ計画的に応札している。受注は概ね計画通りで、受注高・受注時利益率ともに達成確度が高い</p>
土木			<p><b>市場</b>：政府投資が需要を牽引。民間投資も拡大傾向。請負契約額は堅調。土木工事費は緩やかな上昇</p> <p><b>当社</b>：国交省、防衛省の強靱化計画を始めとした公共建設投資は引き続き旺盛。再エネ、カーボンニュートラル、バックエンド事業他の民間設備投資も堅調。受注・施工体制の整備に注力。通期目標値達成を見込む</p>
インフラ運営			<p><b>市場</b>：再エネはグリーン電力需要が増加し、今後環境価値の向上が見込まれる。官民連携はアリーナやウォーターPPPが本格的に案件化</p> <p><b>当社</b>：上流からの提案とパートナー戦略により着実に成果。確実な収益実現を目指す</p>
舗装			<p><b>市場</b>：道路事業費は2010年度以降横ばい、アスファルト合材出荷量は減少傾向</p> <p><b>当社</b>：受注時利益率の改善と適正な価格設定により利益率改善の見通し</p>
機械			<p><b>市場</b>：海外景気の下振れも欧州は回復の兆し。国内需要も底堅い建設投資により堅調に推移</p> <p><b>当社</b>：継続する原材料や人件費の上昇も、適正な価格転嫁により売上総利益は回復</p>

## 2. 決算サマリー

会社	セグメント	決算サマリー
インフロニア		<ul style="list-style-type: none"> <li>FY24 2Q実績は、前年同期比で<b>増収減益</b>だが、通期では<b>利益も計画通り</b>に進捗する見込み（昨年度の土木セグメントにおける特殊要因や一般管理費増）</li> <li>各セグメントの業績は順調に進捗しており、<b>通期計画は達成</b>の見込み</li> </ul>
前田建設	建築	<ul style="list-style-type: none"> <li>2Q実績は前年同期比で<b>増収増益</b></li> <li>今期完工利益額は<b>過去最高額の320億円以上を達成</b>する見込みであり、来期以降も<b>さらに高い利益額で推移</b>していく計画である</li> </ul>
	土木	<ul style="list-style-type: none"> <li>2Q実績は特殊要因を除いた前年度に引き続き、<b>利益率・額ともに高水準</b></li> <li><b>売上高、受注高および利益</b>についても<b>通期計画は達成</b>の見込み</li> </ul>
	インフラ運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>上半期はアリーナ案件3件獲得、来期はウォーターPPP案件に入札予定。蓄電池事業を含む再エネ案件開発にも注力</li> <li>再エネ案件および開発施設の売却により<b>通期計画は達成</b>の見込み</li> </ul>
日本風力開発		<ul style="list-style-type: none"> <li>大型案件の開発が着工に向けて順調に進捗</li> <li>将来への収益力向上に向けて、引き続き案件開発に注力</li> </ul>
前田道路	舗装	<ul style="list-style-type: none"> <li>2Q実績は前年同期比で<b>増収増益</b>。直近3年で<b>売上および利益で最高額を達成</b></li> <li>通期計画も建設・製造事業共に直近3年で<b>売上および利益で最高額となる見込み</b></li> </ul>
前田製作所	機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>2Q実績は前年同期比で<b>増収増益</b></li> <li>市場環境は順調に推移しており、<b>通期計画は達成</b>の見込み</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>2Q実績は前年同期比減収減益だが、追加契約の獲得や一般管理費の見直しなどにより通期計画の達成を見込む</li> </ul>



### 3-1. 資本戦略・還元方針／FY24 2Q時点の実績と通期見通し

#### 株主還元

- 1株当たりの配当額60円（中間30円+期末30円）を予定（配当性向40.4%を見込む）

#### 政策保有株

- FY24中に250億円以上を売却し、純資産割合20%以下を目指す

Medium-term Vision 2024 (2025年3月期までの中期経営計画)			FY23末時点	FY24 2Q時点	備考
資本効率	ROE	9.5%	8.6%	9.0% (通期)	引き続き成長投資を行い、事業利益の向上を目指す
最適 資本構成	自己資本比率	30%以上	28.4% JWD子会社化の ブリッジローンの影響	36.2% (2Q) 35.3% (通期)	日本風力開発の子会社化に係る資金調達により有利子負債が増加したが、FY24は社債型種類株式発行により改善 (補足資料P.11、13参照)
	D/Eレシオ	0.6倍以下	1.1倍	0.76倍 (2Q) 0.82倍 (通期)	
株主還元	配当性向	30%以上	46.0%	40.4% (通期)	1株当たり配当額 60円を予定 (中間30円+期末30円)
	自己株式の 取得	FY24までに 400億円以上	FY21~23 累計400億円	—	FY23時点で中期経営計画の目標を前倒しで達成
	総還元性向	—	78.4% (自己株式の取得 を含む)	42.4% (通期)	FY24通期計画 配当性向40.4% + 地球への配当 2.0% (自己株式の取得は除く)
資産 効率化	政策保有株/ 純資産割合	20%以下	25.8% 株価上昇の影響	18.9% (2Q) 20%以下 (通期)	FY24で250億円以上を売却予定、 純資産比率20%以下を目指す 売却方針はP.5参照
	保有資産の 売却	グループ保有資産の利用状況等を精査し、非効率な資産の売却・統合を実施			

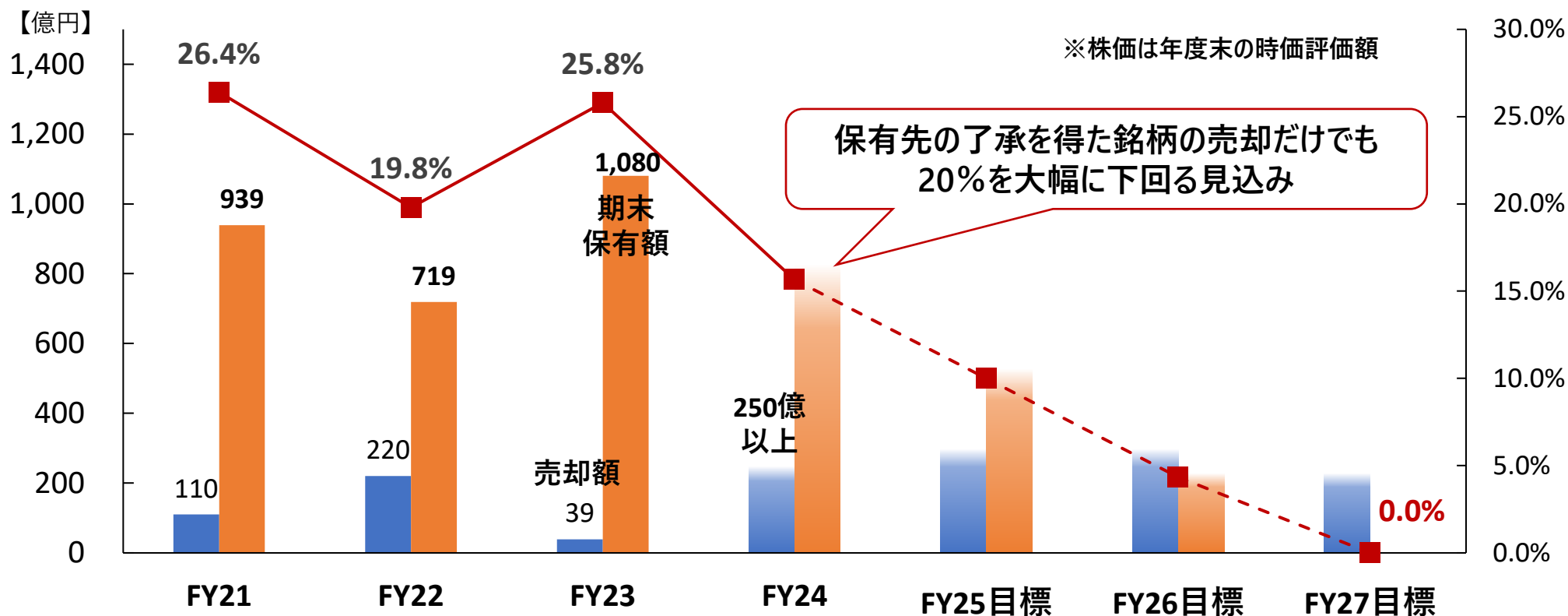
**政策保有株式  
の売却方針**

今期目標 前田建設保有分を**250億円以上売却**（対純資産保有率を20%以下）  
 最終目標 2027年度までに**インフロニアグループ全体でゼロ**とする

**売却による資金  
の分配方針**

財務規律と資本効率を意識した分配を実施  
 →具体的な分配方針は**次期中期経営計画までに決定次第公表**

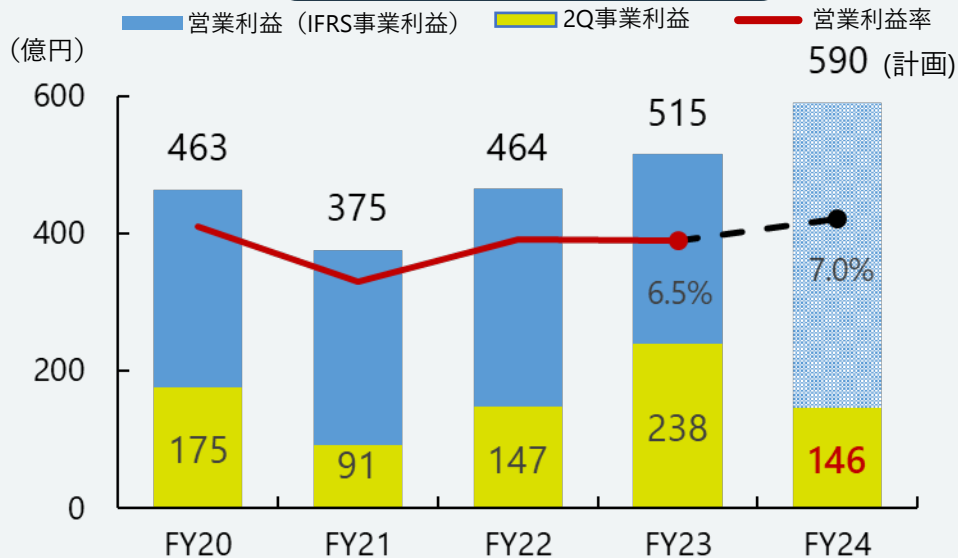
インフロニアグループ 政策保有株式売却額と対純資産保有率の推移



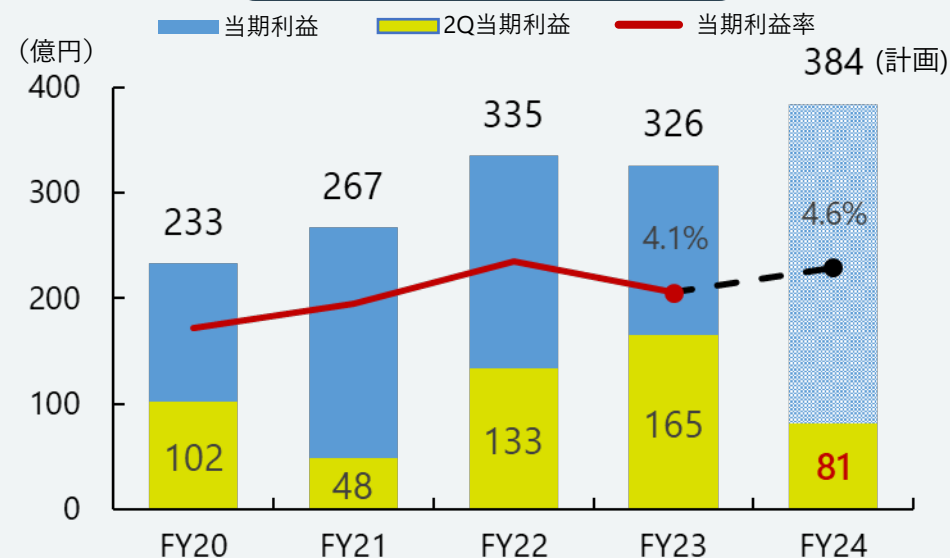
# 4-1. インフロンニア・ホールディングスの業績数値の推移

- 事業利益、当期利益、EBITDA、付加価値額は通期で**過去最高額**を見込む

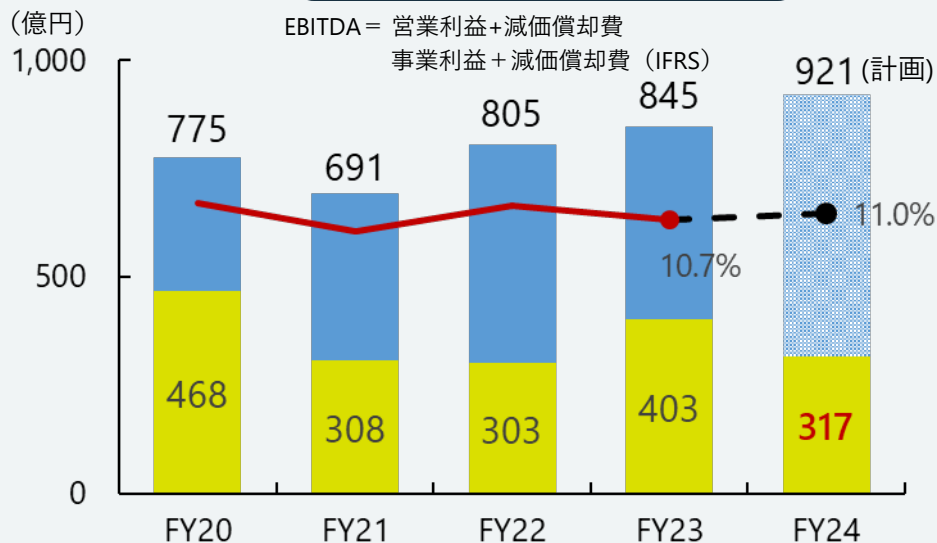
## 営業利益/事業利益



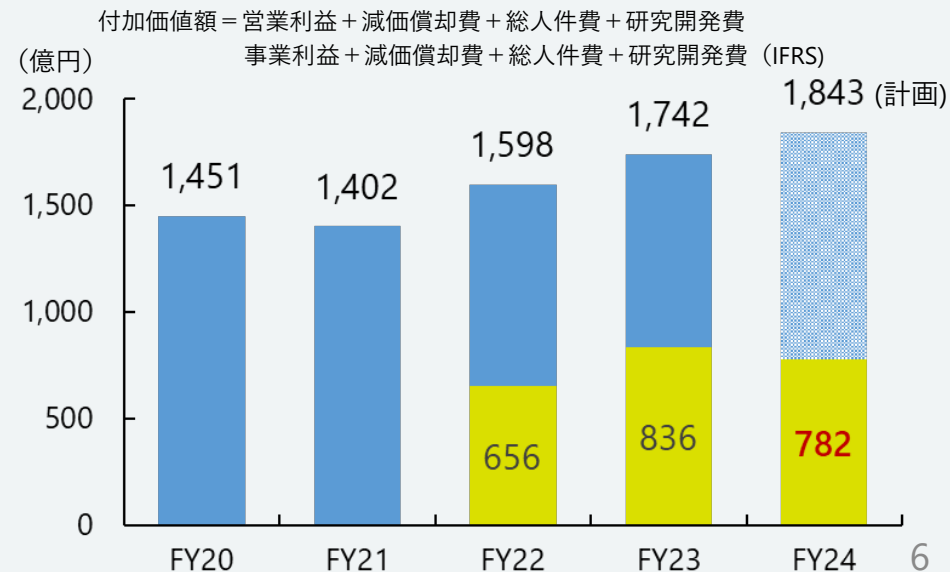
## 当期利益



## EBITDA



## 付加価値額



\* 通期実績値：FY22よりIFRS基準による数値 \* 2Q実績値：FY23よりIFRS基準による数値

## 4-2. インフロンニア・ホールディングスの業績数値の前年比

- FY24 2Q実績は、**前年同期比で増収減益だが、通期では利益も計画通りに進捗し増収増益**となる見込み  
(昨年度の土木セグメントにおける特殊要因や一般管理費増など)
- 各セグメントの業績は順調に推移しており、**通期計画は達成**の見込み

(億円)

	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	前年 同期比	進捗率	FY23 通期実績	FY24 計画	前期比
売上高	3,588	3,807	219	45.3%	7,933	8,399	466
売上総利益	514 (14.3%)	470 (12.3%)	△44	37.6%	1,119 (14.1%)	1,251 (14.9%)	132
一般管理費	281 (7.8%)	327 (8.6%)	46	48.3%	621 (7.8%)	677 (8.1%)	56
EBITDA	403 (11.2%)	317 (8.3%)	△86	34.4%	845 (10.7%)	921 (11.0%)	76
事業利益	238 (6.6%)	146 (3.8%)	△92	24.7%	515 (6.5%)	590 (7.0%)	75
その他の収益	4	9	5	—	17	12	△5
その他の費用	4	12	8	—	21	12	△9
営業利益	238 (6.6%)	143 (3.8%)	△95	24.3%	511 (6.4%)	590 (7.0%)	79
金融収益	17	13	△4	—	30	0	△30
金融費用	12	27	15	—	47	23	△24
当期利益 <sup>※1</sup>	165 (4.6%)	81 (2.1%)	△84	21.1%	326 (4.1%)	384 (4.6%)	58
自己資本	3,763	4,940	—	—	3,999	4,096	—
ROE	—	—	—	—	8.6%	9.0%	—
ROIC	—	—	—	—	4.0%	—	—
WACC	—	—	—	—	3.7%	—	—
EPS	—	—	—	—	130.5円	133.5円	—

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益



## 5. セグメント別 業績数値の前年比

INFRONEER Holdings Inc.  
(億円)

		FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	前年 同期比	進捗率	FY23 通期実績	FY24 通期計画	前期比
売上高		3,588	3,807	219	45.3%	7,933	8,399	466
建築		1,084	1,366	283	46.6%	2,737	2,933	196
土木		826	657	△ 168	43.7%	1,624	1,503	△ 121
舗装		1,190	1,230	40	47.9%	2,518	2,570	52
機械		194	200	6	48.8%	398	409	11
インフラ 運営	MK	83	113	30	35.2%	173	322	149
	JWD	-	22	-	25.8%	11	87	76
その他		212	218	6	38.0%	472	575	103
売上総利益		514 (14.3%)	470 (12.3%)	△ 44	37.5%	1,119 (14.1%)	1,251 (14.9%)	132
建築		66 (6.1%)	102 (7.4%)	36	32.5%	224 (8.2%)	313 (10.7%)	89
土木		236 (28.6%)	135 (20.6%)	△ 101	48.3%	424 (26.1%)	280 (18.6%)	△ 144
舗装		143 (12.0%)	155 (12.6%)	12	42.8%	311 (12.3%)	363 (14.1%)	52
機械		40 (20.7%)	43 (21.5%)	3	46.1%	85 (21.4%)	93 (22.7%)	8
インフラ 運営	MK	11 (13.6%)	13 (11.3%)	2	11.2%	29 (16.6%)	114 (35.4%)	85
	JWD	-	5 (24.4%)	-	13.4%	6 (55.3%)	41 (47.1%)	35
その他		17 (8.1%)	16 (7.5%)	△ 1	35.0%	40 (8.5%)	47 (8.2%)	7
事業利益		238 (6.6%)	146 (3.8%)	△ 92	24.8%	515 (6.5%)	590 (7.0%)	75
建築		△ 20	10 (0.7%)	30	7.1%	43 (1.6%)	136 (4.6%)	93
土木		178 (21.5%)	73 (11.2%)	△ 104	48.3%	296 (18.2%)	152 (10.1%)	△ 144
舗装		70 (5.9%)	76 (6.1%)	5	38.3%	148 (5.9%)	197 (7.7%)	49
機械		9 (4.9%)	10 (5.2%)	1	47.2%	19 (4.7%)	22 (5.4%)	3
インフラ 運営	MK	△ 2	△ 3	△ 1	-	△ 2	69 (21.4%)	71
	JWD	-	△ 15	-	-	△ 2	1 (1.1%)	3
その他		3 (1.4%)	△ 4	△ 7	-	12 (2.6%)	13 (2.3%)	1

※MK：前田建設、JWD：日本風力開発

※舗装セグメントはPPA資産の償却が加味されています

※インフラ運営セグメントのJWDはPPA資産の償却が加味されています

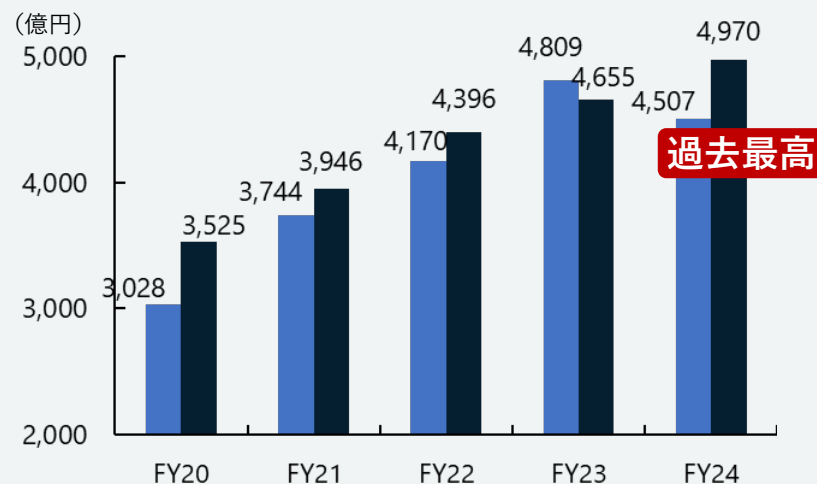
## 6. 手持工事高、受注高、受注時利益率の推移 【建築、土木セグメント】

- 建築の2Q受注高は堅調に推移し、**受注時利益率は高水準**を確保  
 期末での手持工事高は**過去最高額**を見込む
- 土木の2Q受注高は**順調**に推移し、**受注時利益率も高水準**を維持  
 期末での手持工事高は直近3年で**最高額**を見込む

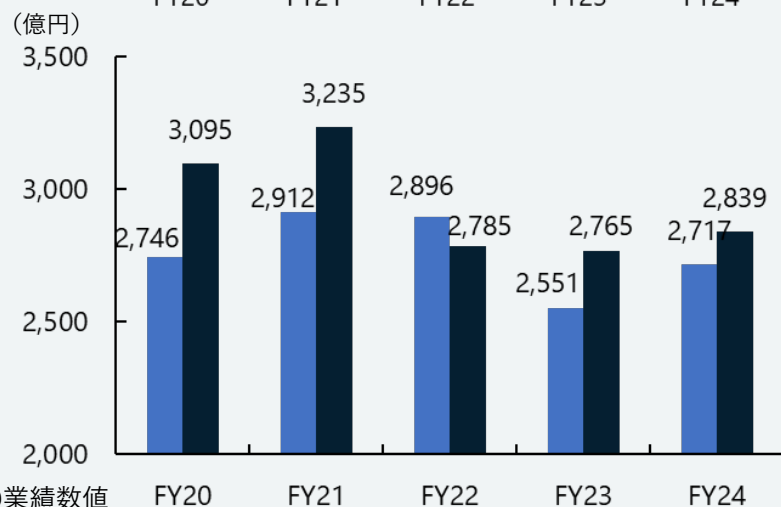
手持工事高※

■ 2Q ■ 期末

建築

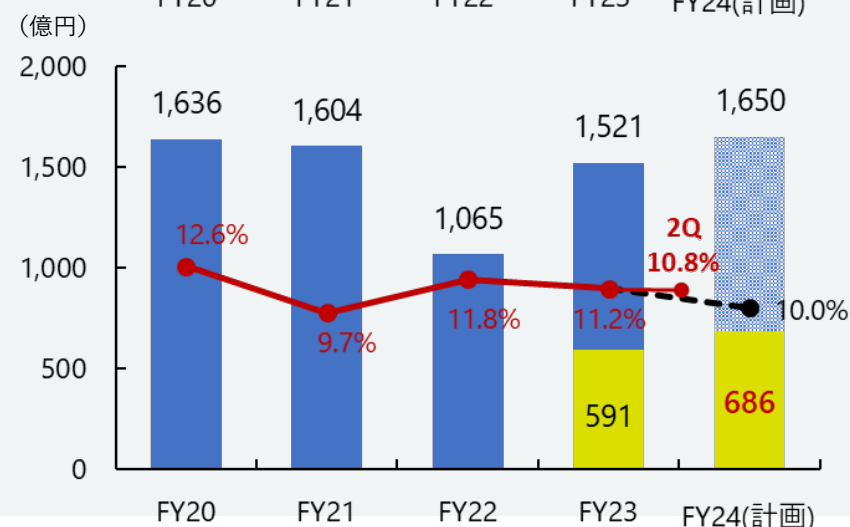
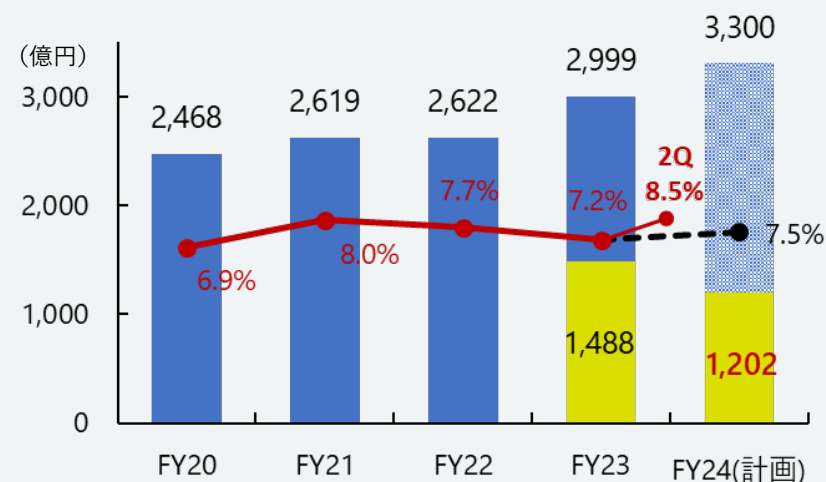


土木



受注高・受注時利益率※

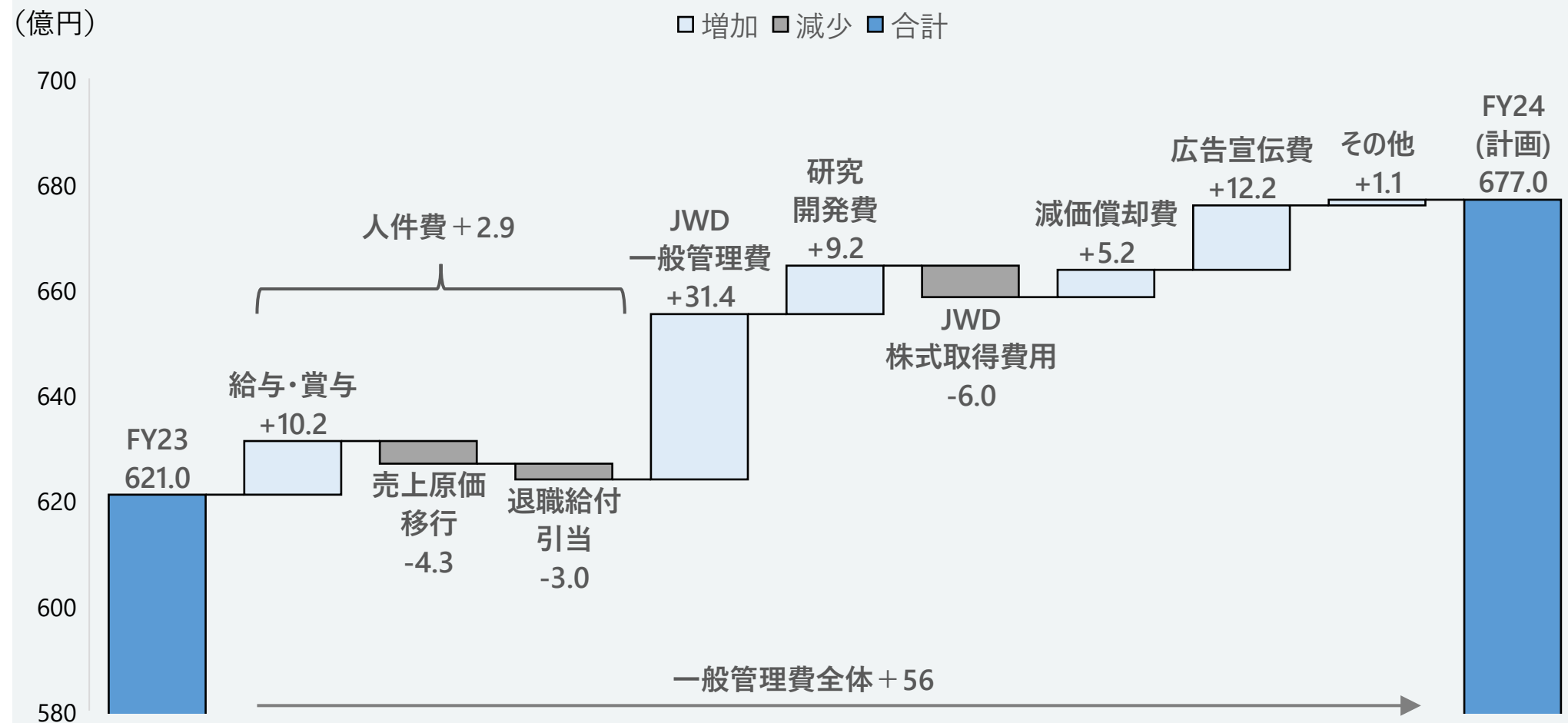
■ 受注高合計 ■ 受注高 2Q実績 ● 受注時利益率\_実績



※前田建設の業績数値

## 7. FY24一般管理費 増減の主な要因

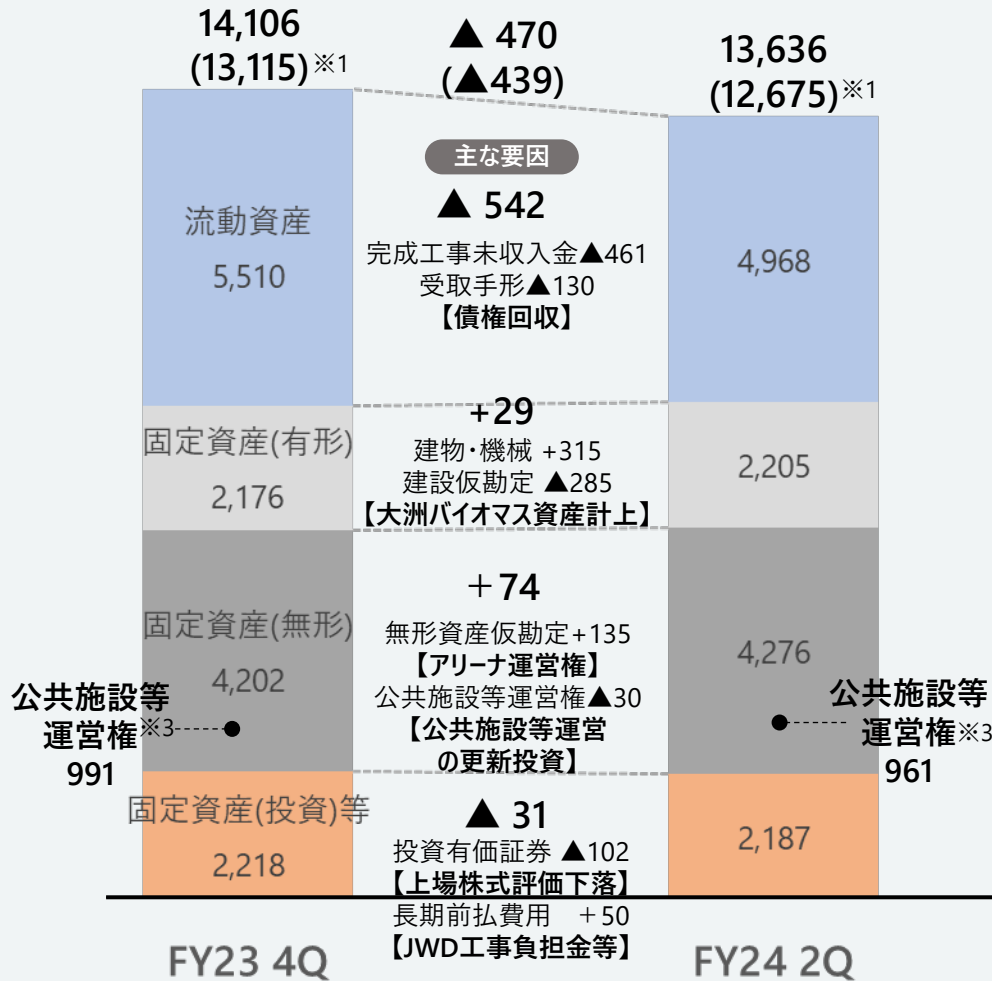
- 日本風力開発 完全子会社化に伴い、一般管理費が増加
- 広告宣伝費については、B.LEAGUEとのパートナーシップ契約の締結に伴い増加。これは、コンセッション事業を始めとする官民連携・インフラビジネスのノウハウを活かした、地方創生に寄与する取り組みが目的



# 8. 連結貸借対照表の主な増減の要因

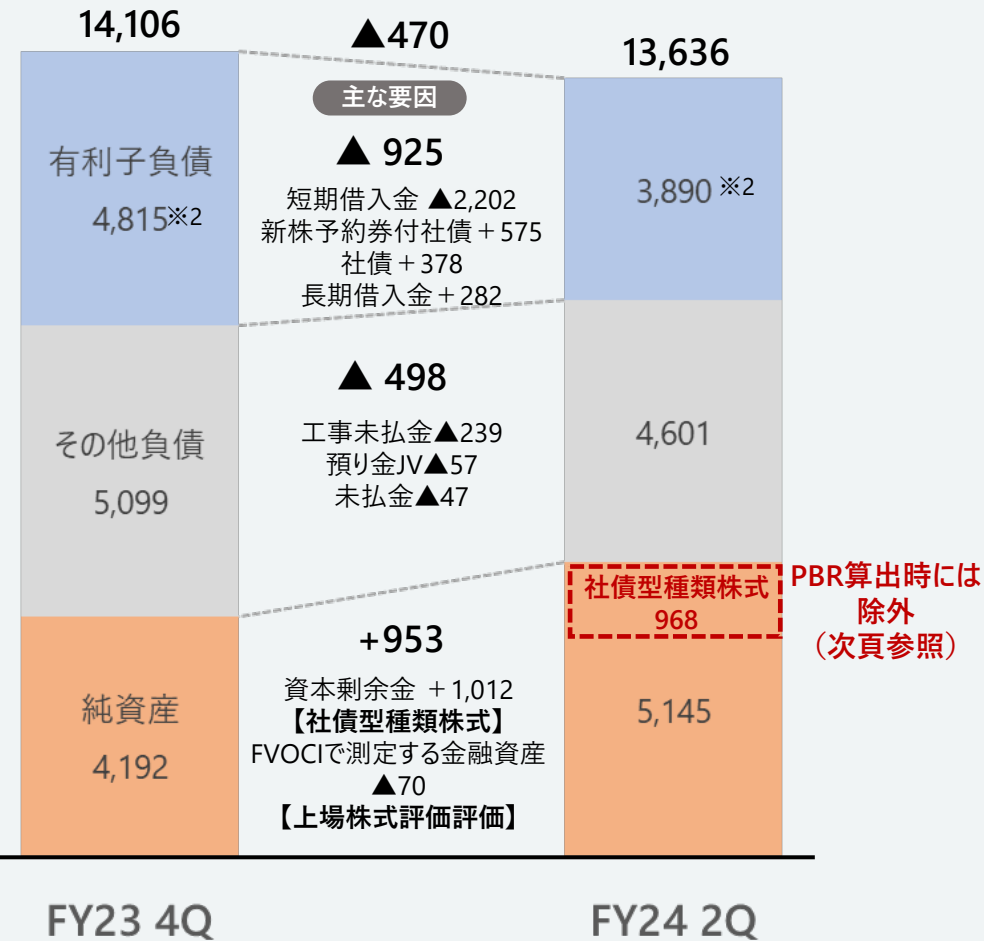
## 資産

(億円)



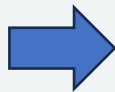
## 負債・資本

(億円)



FY23 4Q時点

ROA 2.3%  
(2.5%) ※1



FY24 通期見込み

ROA 2.7%  
(2.9%) ※1

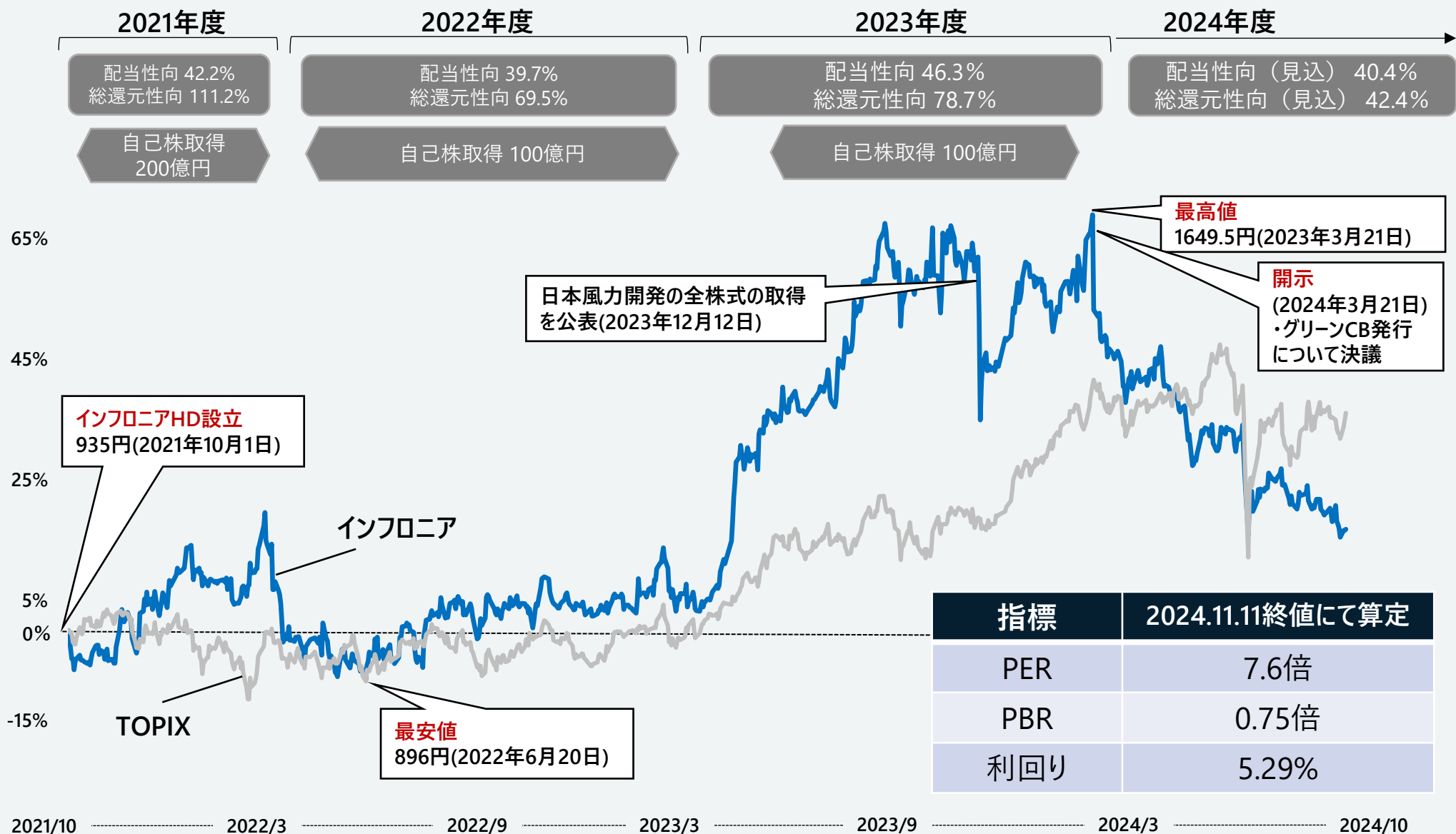
※1 ( )・・・公共施設等運営権を除いた数値

※2 有利子負債 = 短期借入金、長期借入金、ノンリコース借入金 (1年以内返済予定も含む)、社債

※3 公共施設等運営権：コンセッション事業などの数年にわたって公共施設を運営する権利の譲渡を受ける際に支払われる対価

## 9. 資本戦略と株価の推移

- 引続き資本戦略の実施および業績目標達成により資本効率を意識した経営を進める



※2021年10月1日時点の株価を基準(0)とした、株価の伸び率を%で表示



## 10. 社債型種類株式の財務指標等への影響

- 社債型種類株式は普通株式とは区別され、PBR算定時の純資産からは除く
- ROE・EPSは、優先配当分差し引かれる為、普通株主に帰属する当期純利益は減少

(億円)

財務指標	算定式	FY24通期見込
ROE (普通株式)	$\frac{\text{当期純利益} - \text{優先配当}}{\text{自己資本 (普通株式)}}$	$\frac{384 - 17^{*\1}}{4,096} = 9.0\%$
EPS (普通株式)	$\frac{\text{当期純利益} - \text{優先配当}}{\text{発行済株式数 (普通株式)}}$	$\frac{384 - 17^{*\1}}{24,677 \text{万株}} = 148.6 \text{円}$
PBR (普通株式 ・2Q時点)	$\frac{\text{時価総額 (普通株式)}}{\text{純資産} - \text{社債型種類株式に係る純資産} - \text{優先配当}}$	$\frac{1,135^{*\2} \times 27,484 \text{万株}^{*\3}}{5,145 - 968 - 17^{*\1}} = 0.75 \text{倍}$
D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本 (種類株式を含む)}}$	$\frac{4,250}{5,160} = 0.82 \text{倍}$

※1 初年度配当17.34億円 次年度以降配当26億円

※2 株価は2024.11.11終値にて算定

※3 自己株含む

# Appendix

---

## セグメント別ハイライト

**建築**  
前田建設

**土木**  
前田建設

**インフラ運営**  
前田建設（連結）

**インフラ運営**  
日本風力開発（連結）

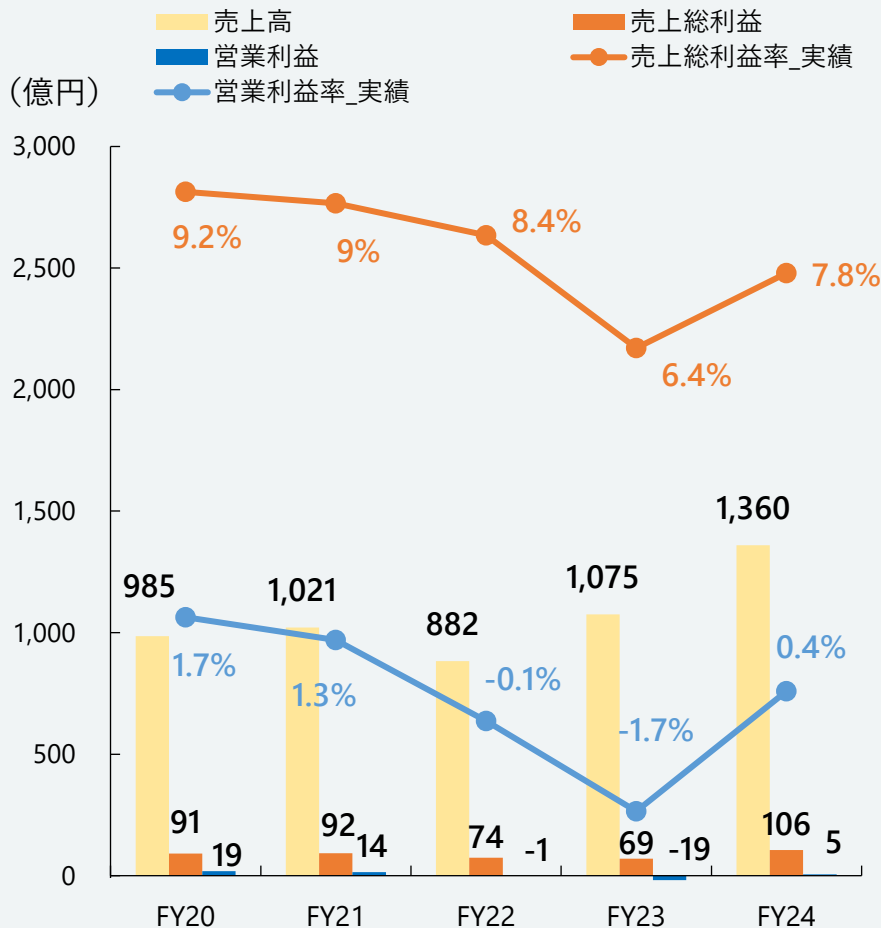
**舗装**  
前田道路（連結）

**機械**  
前田製作所（連結）

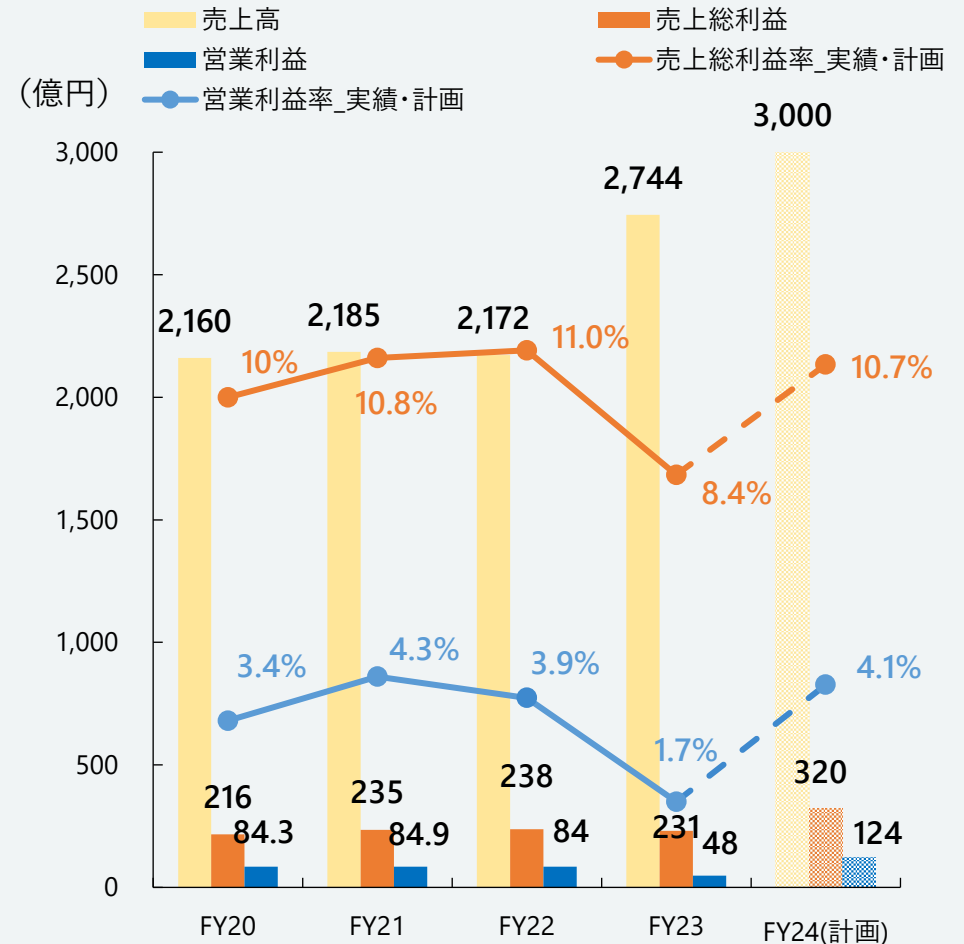
# 1-1. 【前田建設 個別 ※不動産含む】 売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY24 2Q 期首手持工事と新規受注工事の順調な進捗により前年同期比**増収増益**となった
- FY24 通期 大型工事（大型アリーナ、再開発案件等）が下期に完工を迎えるため、売上高3,000億円を超える見込み。売上総利益と営業利益ともに**計画達成見込み**

## 第2四半期



## 通 期

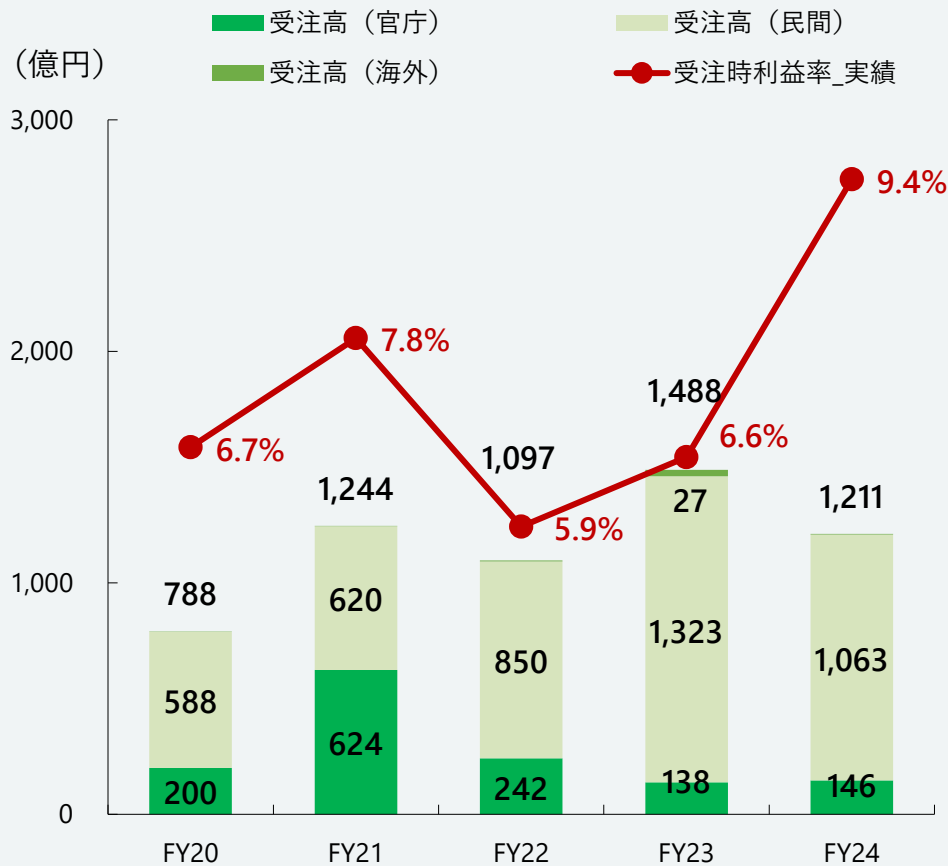


※海外の主要現地法人の売上高、売上総利益はインフロニア・ホールディングス その他セグメントに含まれる。

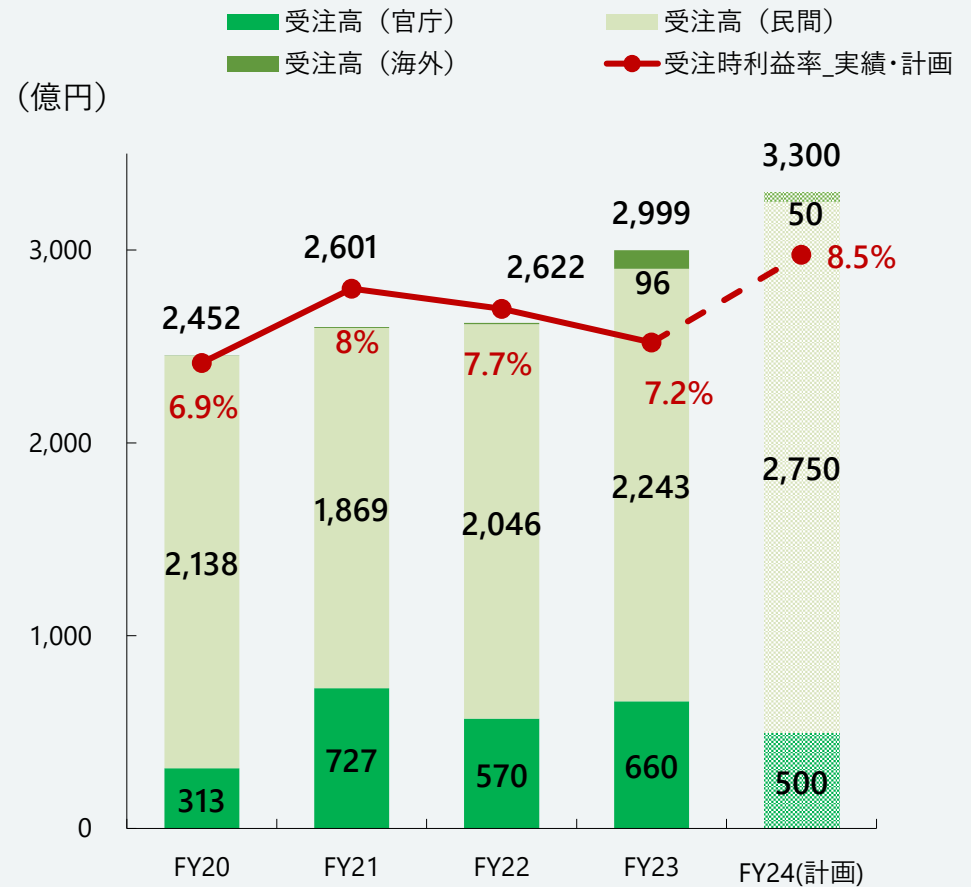
## 1-2. 【前田建設 個別 ※不動産含む】 受注高と受注時利益率の推移

- FY24 2Q 前期は大型再開発案件を含め大型受注は3件あったが、今期は1件であったため前期比減少  
受注時利益率は決裁時の利益率管理を再徹底したことで好採算案件が増加し、**前年同期を上回った**
- FY24通期 下期に確度の高い大型民間案件の受注を複数予定しているため、受注高および受注時利益の**計画を大きく上回る**見込み

### 第2四半期



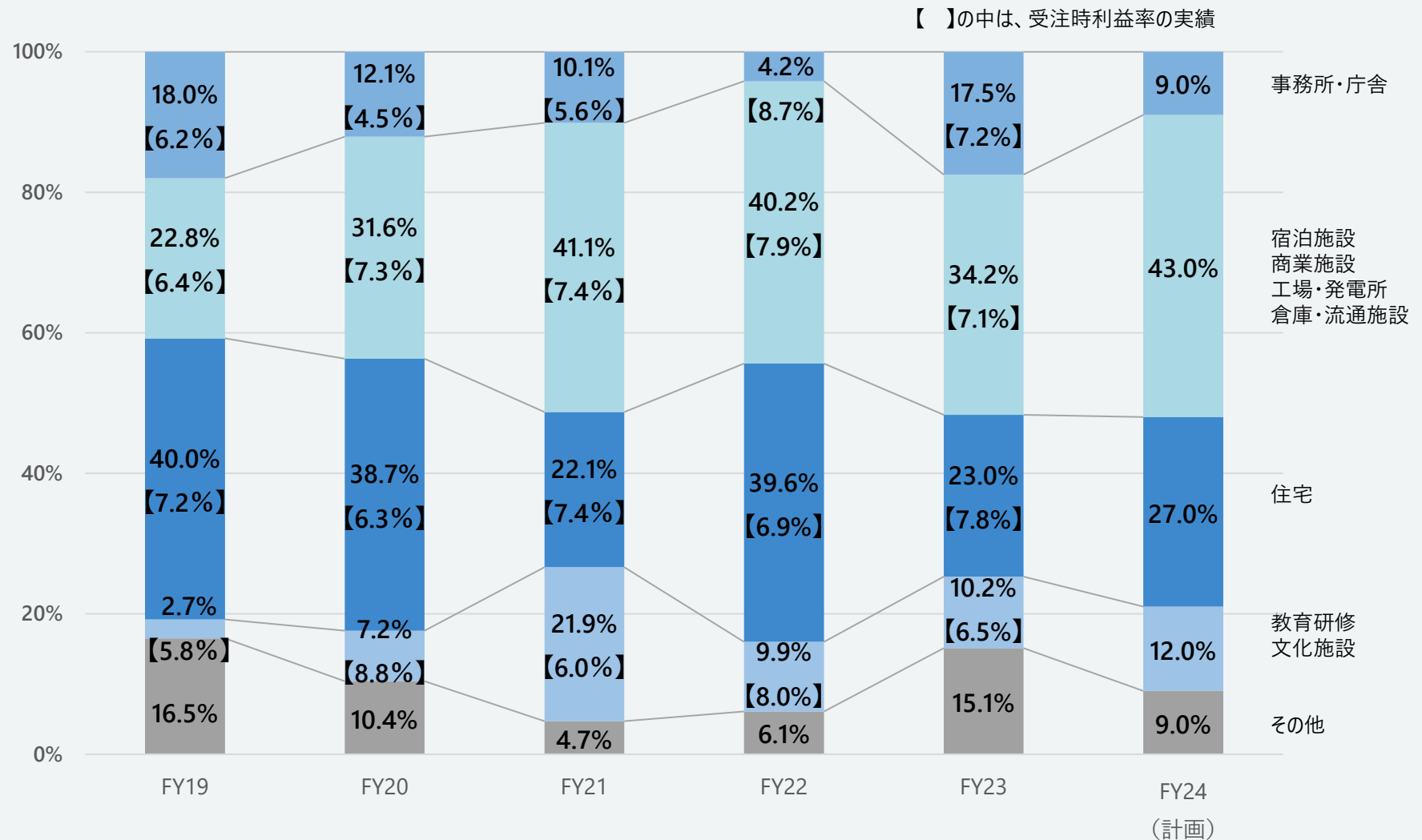
### 通 期





### 1-3. 【前田建設 個別 国内】 建物用途別 受注比率の推移

- FY24 2Q 「宿泊・商業・工場・倉庫」は大型案件と大型リニューアル案件を受注したことにより、比率が高まった  
「教育・文化」はアリーナ大型リニューアルと官庁の新規受注により比率が高まった
- FY24通期 複数の大型物流プロジェクトの受注により「宿泊・商業・工場・倉庫」比率が高まる見込み  
「住宅」は大型再開発プロジェクトを中心に堅調な受注を見込む



建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

1-4. トピックス「教育・文化施設への取組」、「日本初のPFI-Rコンセッション方式」

多摩美術大学 上野毛キャンパス新棟新築工事



多摩美術大学誕生の地である上野毛キャンパスに新棟を建設する創立90周年（2025年）事業です。「アートが新しい世界像を具現化し人々の心を動かす。デザインが私たちの社会を望ましい状態に導く。これらを実現するためには、学生や教員が自身の創造性を育むことができる空間づくりを目指す」という学校のコンセプトを実現する第一歩として建設に取り組みます。

発注者：学校法人 多摩美術大学

用途	教育・研究・文化
構造・規模	SRC造、地下1階・地上5階
延床面積	約7,146㎡
工期	2024年4月～2025年9月

富山市総合体育館Rコンセッション事業



日本初のPFI-Rコンセッション方式。富山市が進めるコンパクトシティ戦略のさらなる推進に向けて、富山市総合体育館を中心市街地における集客・交流の中核施設の一つとしてリニューアルし、多様な利用シーンの実現や収益モデルを実現するための施設整備・運営を目指します。

発注者：とやまアリーナコンセッション株式会社  
（PFI事業全体発注者：富山市）

用途	教育・研究・文化
構造・規模	RC造・一部S造、地下1階・地上2階
延床面積	28,681.97㎡
工期	2024年5月～2026年9月（建設工事予定）

建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

1-5. トピックス「大型物流への取組」、「技術力を活かした官庁工事への取組」

SOSiLA京都久御山新築工事



S造4階建て約95,000㎡の大型物流倉庫です。計画地は、京滋バイパス久御山IC・第二京阪久御山南ICから1.5kmと近く、24時間稼働可能な工場・倉庫集積地に位置し、京都・大阪・滋賀からのアクセスも良好で広域輸送にも適した立地です。

発注者：住友商事株式会社

用途	物流倉庫
構造・規模	S造、地上4階
延床面積	95,211㎡
工期	2024年10月～2026年2月

新唐津市民会館(仮称)改築建築工事



文化芸術により市民に安らぎや活力を与える場として、優れた文化芸術に触れることによって、市民による自主的な文化芸術活動を促進し、市民の創造性や表現力を生み出すことを目指します。また、文化会館から生み出される文化芸術が持つ力と唐津の伝統文化とが連動して、広く唐津の魅力を発信することができる文化交流の拠点を目指します。

発注者：唐津市

用途	公会堂・展示場
構造・規模	RC造(一部SRC造)及びS造、地下1階地上4階
延床面積	7,245㎡
工期	2024年9月～2026年3月

建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

## セグメント別ハイライト

建築  
前田建設

土木  
前田建設

インフラ運営  
前田建設（連結）

インフラ運営  
日本風力開発（連結）

舗装  
前田道路（連結）

機械  
前田製作所（連結）



## 2-1. 【前田建設 個別】 売上高、売上総利益、営業利益の推移

土木

INFRONEER Holdings Inc.

建築

土木

インフラ・MK

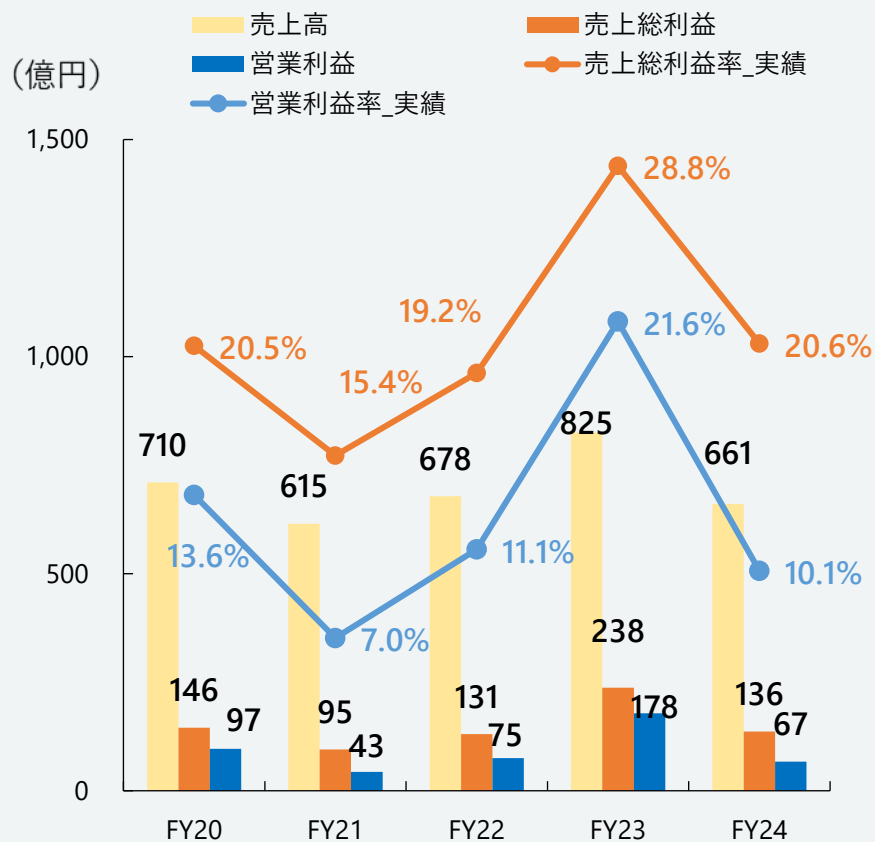
インフラ・JWD

舗装

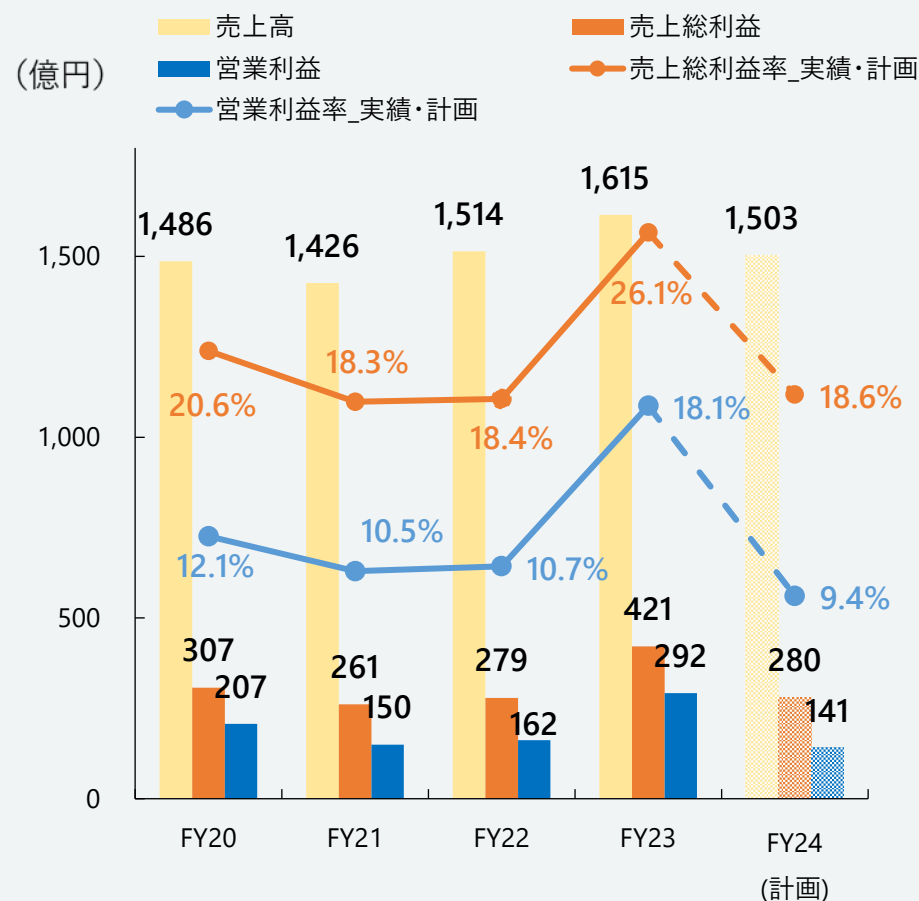
機械

- FY24 2Q 前年は大型の設計変更獲得による売上高と利益の大幅増があったため、前年同期比で減収減益となっているが、高水準を維持
- FY24通期 本支店が一体となって円滑な施工を支援し、進捗状況の改善と設計変更の獲得額の増加により、**通期計画達成**の見込み

### 第2四半期



### 通期





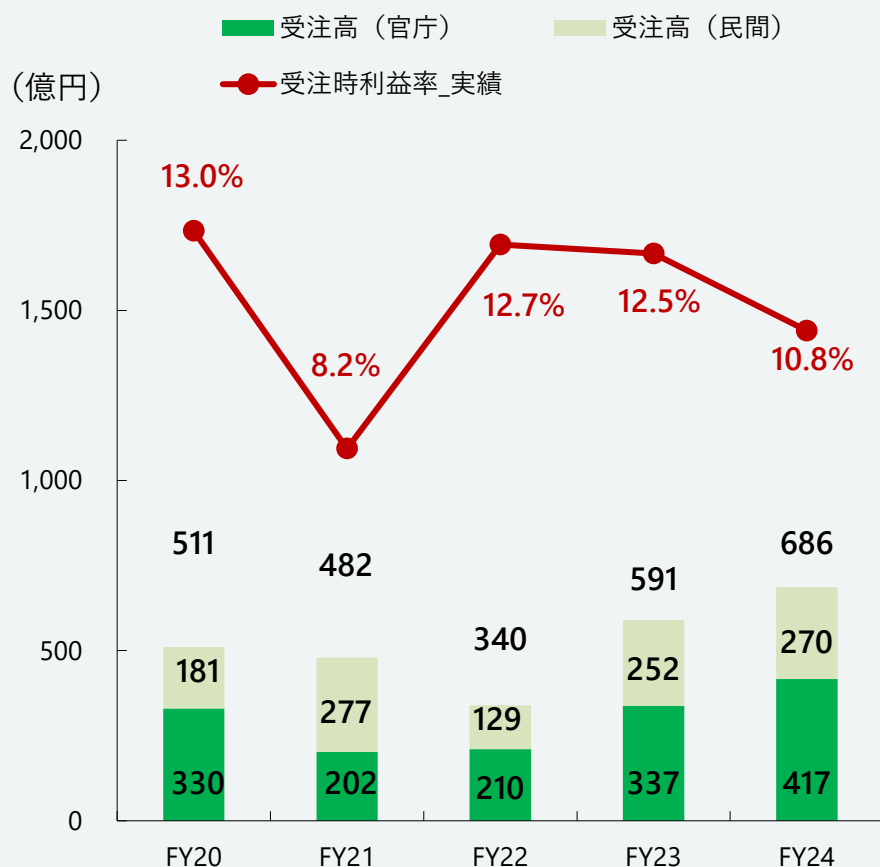
## 2-2. 【前田建設 個別】 受注高と受注時利益率の推移

土木

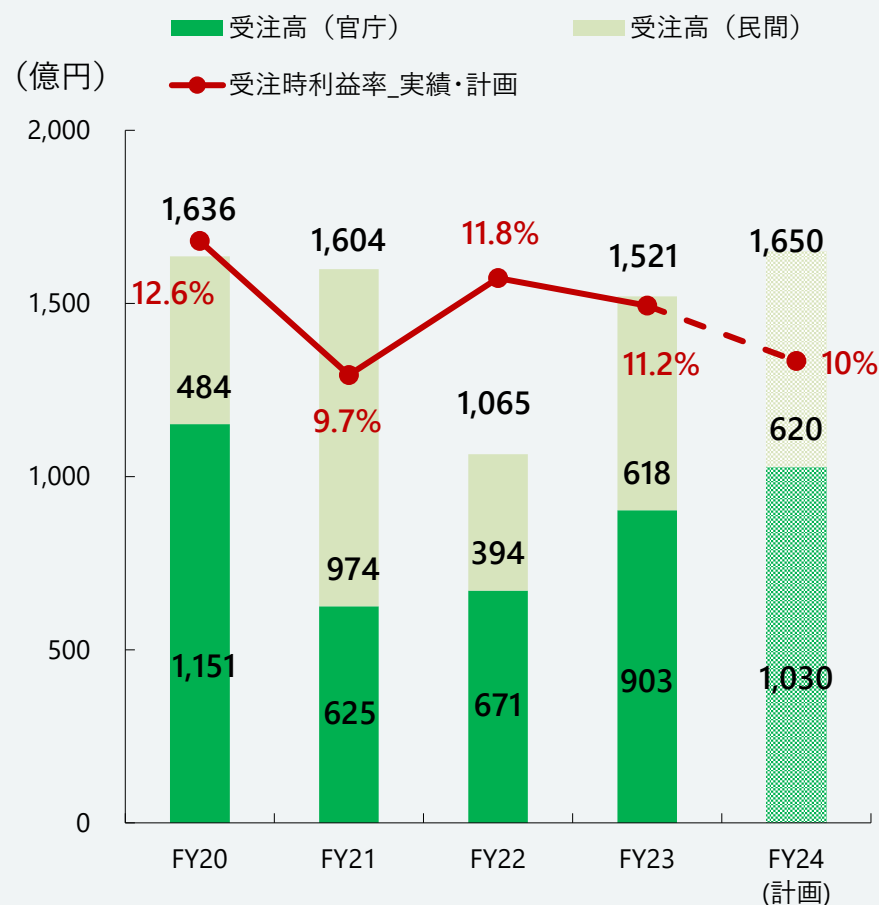
INFRONEER Holdings Inc.

- FY24 2Q 受注は官民共に堅調で**対前期比増加**。受注時利益率も計画値(10%)を上回った
- FY24通期 下期に出件予定の大型工事の受注確保、特命案件の期ズレ防止。設計変更の獲得により**通期計画達成**を見込む

### 第2四半期



### 通期



建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

## 守口市守口処理場沈砂池ポンプ棟・寺方ポンプ場更新事業（土木）



本事業は、供用開始から55年以上経過し老朽化が進行している寺方ポンプ場を新設ポンプ棟に建て替える更新事業です。膨大な事業量、長期に亘る更新整備となるため民間事業者のノウハウを最大限に活用し、効率的に実施することを目的にデザインビルド方式が採用され、当社を代表企業とする(株)クボタ、(株)東芝インフラシステムズ(株)、(株)東京設計事務所グループが受注に至りました。当社水事業で初のDB方式の受注となります。

発注者：守口市

施工場所	大阪府守口市南寺方東通
工事概要	ポンプ場（合流式ポンプ施設 最大下水量3.485m <sup>3</sup> /秒）新設 【新設】沈砂池ポンプ棟、流入渠、汚水圧送管、放流渠他【撤去】旧寺方ポンプ場、流入渠、放流渠他
工期	2024年7月～2033年3月

建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

## セグメント別ハイライト

建築  
前田建設

土木  
前田建設

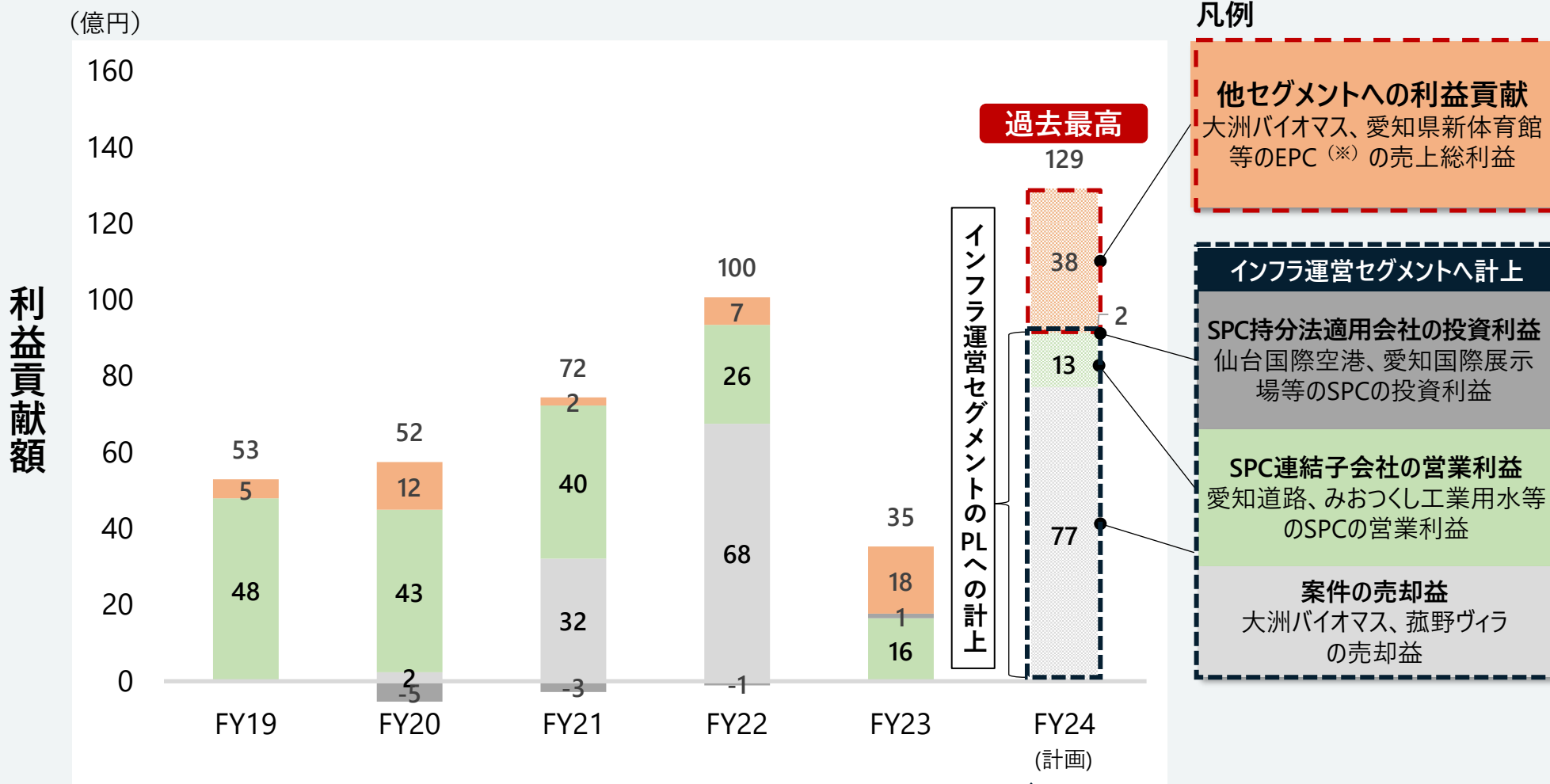
インフラ運営  
前田建設（連結）

インフラ運営  
日本風力開発（連結）

舗装  
前田道路（連結）

機械  
前田製作所（連結）

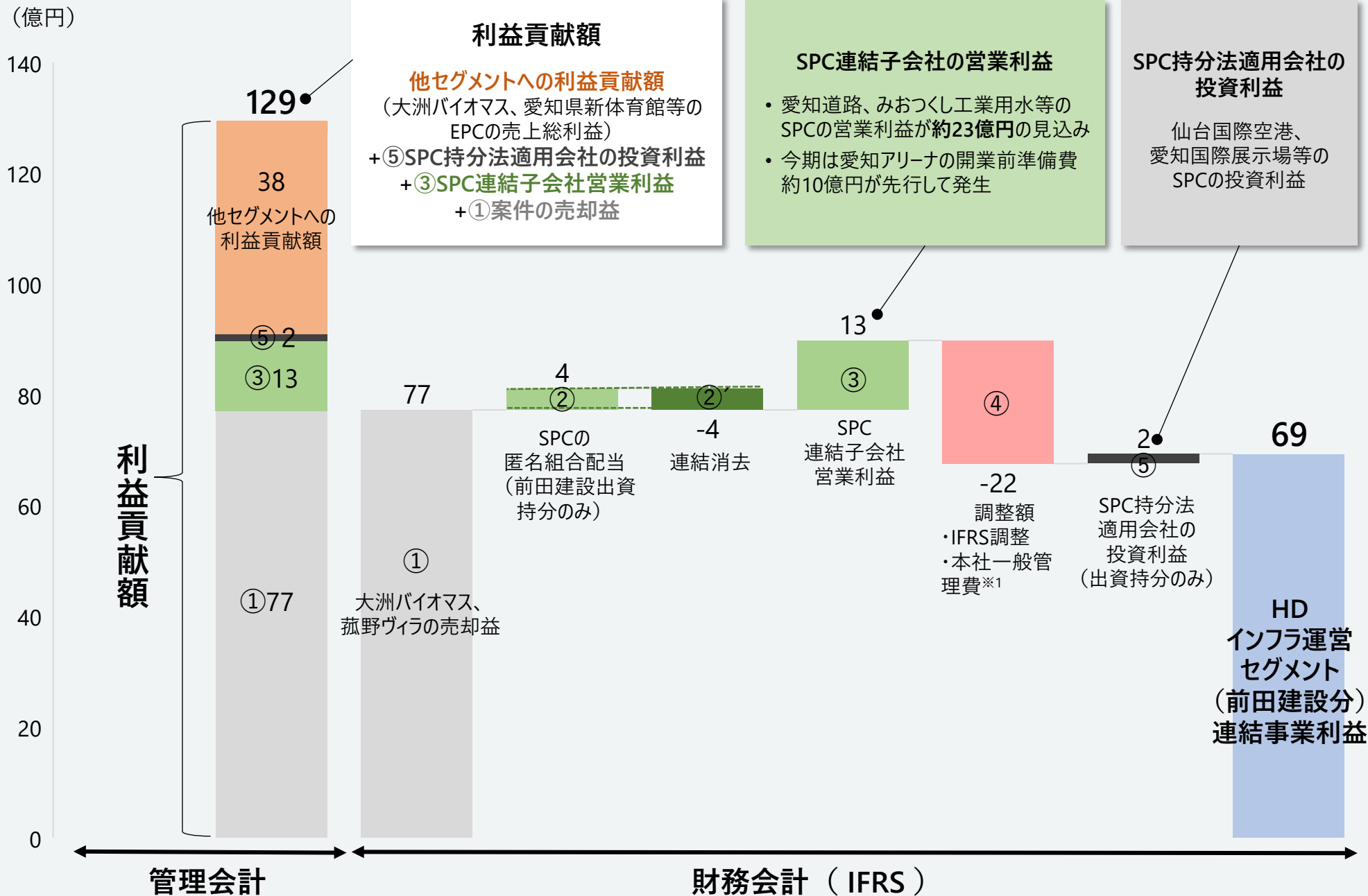
- FY24 2Q 愛知道路をはじめとした運営中のSPCの営業利益は順調に推移している（P.28参照）
- FY24通期 前年度見送った再生可能エネルギー案件及び開発案件の売却を予定しており、通期の利益貢献額は129億円となる見込み（P.27参照）



（※）EPC インフラ運営事業に伴う設計・調達・建設工事等の一括請負業務

詳細は  
次頁参照

建築  
土木  
インフラ・MK  
インフラ・JWD  
舗装  
機械



建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

※1 SPC連結子会社ならびにSPC持分法適用会社の一般管理費を除く、前田建設ならびにホールディングスのインフラ運営セグメントに係る一般管理費

- 愛知道路をはじめとした運営中のSPCの営業利益は順調に推移している

前田建設工業

(百万円)

連結子会社 (インフラ運営セグメント)	愛知道路コンセッション(株) ※1			みおつくし工業用水コンセッション(株) ※1			三浦下水道コンセッション(株) ※1		
	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画
売上高	7,513	7,770	15,982	719	702	1,721	98	102	242
営業利益	631	938	2,131	131	129	124	28	22	14
経常利益	50	386	1,041	125	123	113	25	19	8
当期純利益	32	348	948	82	75	75	17	12	6

持分法 適用会社	仙台国際空港(株) ※2			愛知国際展示場(株) ※3		
	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画
売上高	2,038	2,275	4,603	347	731	1,034
営業利益	197	220	271	-52	241	197
経常利益	195	223	270	-64	250	186
当期純利益	251	183	335	47	165	123

※1 日本基準・単体

※2 日本基準・単体、当社出資持分：49%

※3 日本基準・単体、当社出資持分：30%

建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械



## POINT

- ✓ 様々なインフラサービスにおける確かな実績
- ✓ 民間の強みを活かし、効率的な一括管理を実施

### コンセッション事業

9 事業

(FY24 1Q時 9 事業)

### PFI事業等

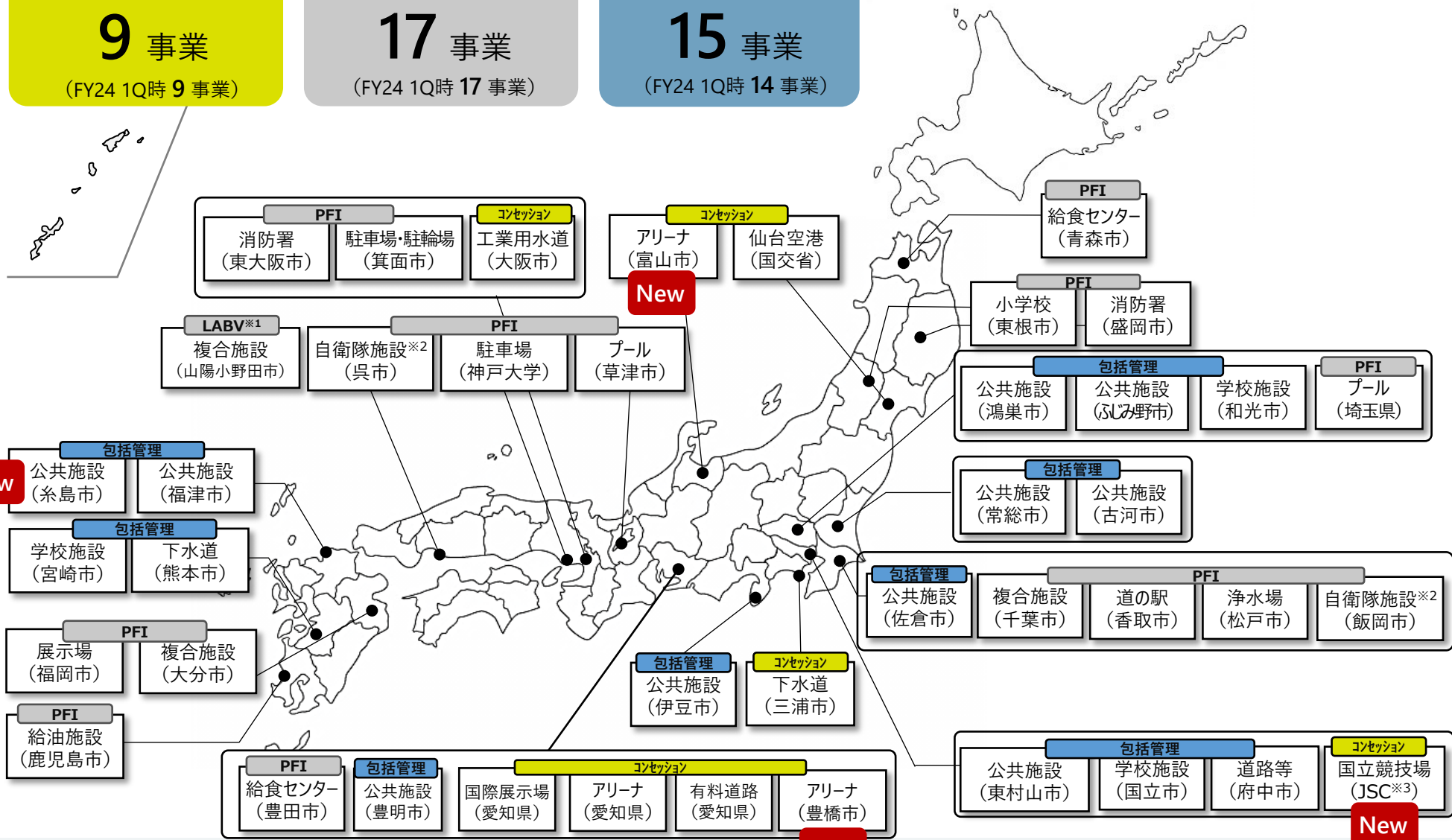
17 事業

(FY24 1Q時 17 事業)

### 包括的民間委託

15 事業

(FY24 1Q時 14 事業)



※1 LABV : Local Asset Backed Vehicle 官民協働開発事業体  
 ※2 自衛隊施設 (飯岡市/呉市) は 2 施設で 1 事業  
 ※3 JSC : JAPAN SPORT COUNCIL 日本スポーツ振興センター

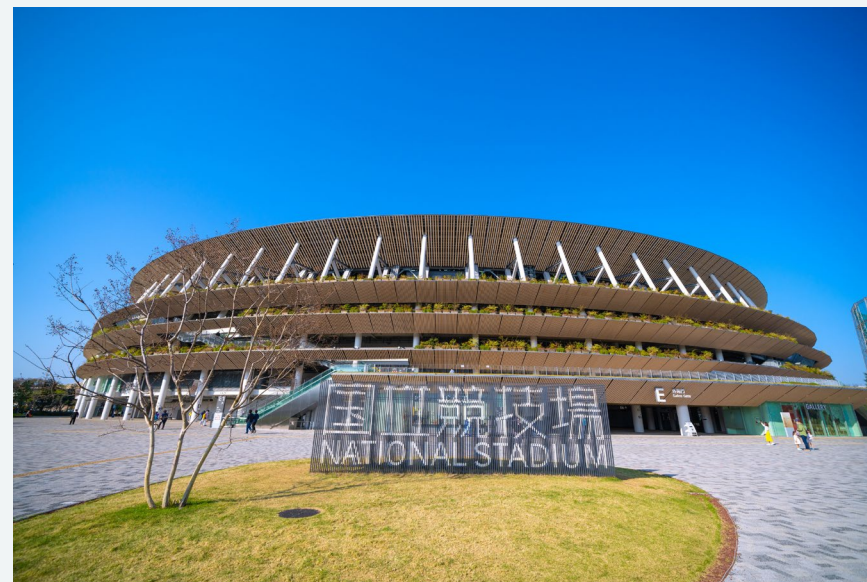
## 2024年6月「国立競技場」のコンセッション事業の優先交渉権者に選定され、2025年4月から30年間運営予定。世界トップレベルのナショナルスタジアムへ

### POINT

- ✓ 世界最先端のスタジアム運営ノウハウを導入。スタジアム運営に係る全ステークホルダーへの提供価値を収益に転換し、スタジアムの経済的自立とスポーツ界の成長を推進
- ✓ 国内外におけるトップレベルのスポーツが更なる成長を遂げ、国民から注目を集め、アスリートの憧れとなるスポーツの中核拠点
- ✓ 全国・世界へとつながる国立競技場を起点に、複数のコミュニティが出会い・交わり、社会的価値を創出

発注者	独立行政法人日本スポーツ振興センター
事業会社	株式会社ジャパンナショナルスタジアム・エンターテインメント
構成企業	NTTドコモ(58%) 前田建設工業(34%) SMFLみらいパートナーズ(5%) 日本プロサッカーリーグ(3%)
期間	2025年4月～2055年3月（30年間）
施設概要	所在地：東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号 建設用途：観覧場、附属自動車車庫、自転車駐車場 建築面積：69,611.33㎡ 構造：鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統括管理業務</li> <li>・ 運営業務</li> <li>・ 維持管理業務</li> <li>・ 運営権者が任意で行う業務</li> </ul>

### ■国立競技場 外観



建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

## セグメント別ハイライト

建築  
前田建設

土木  
前田建設

インフラ運営  
前田建設（連結）

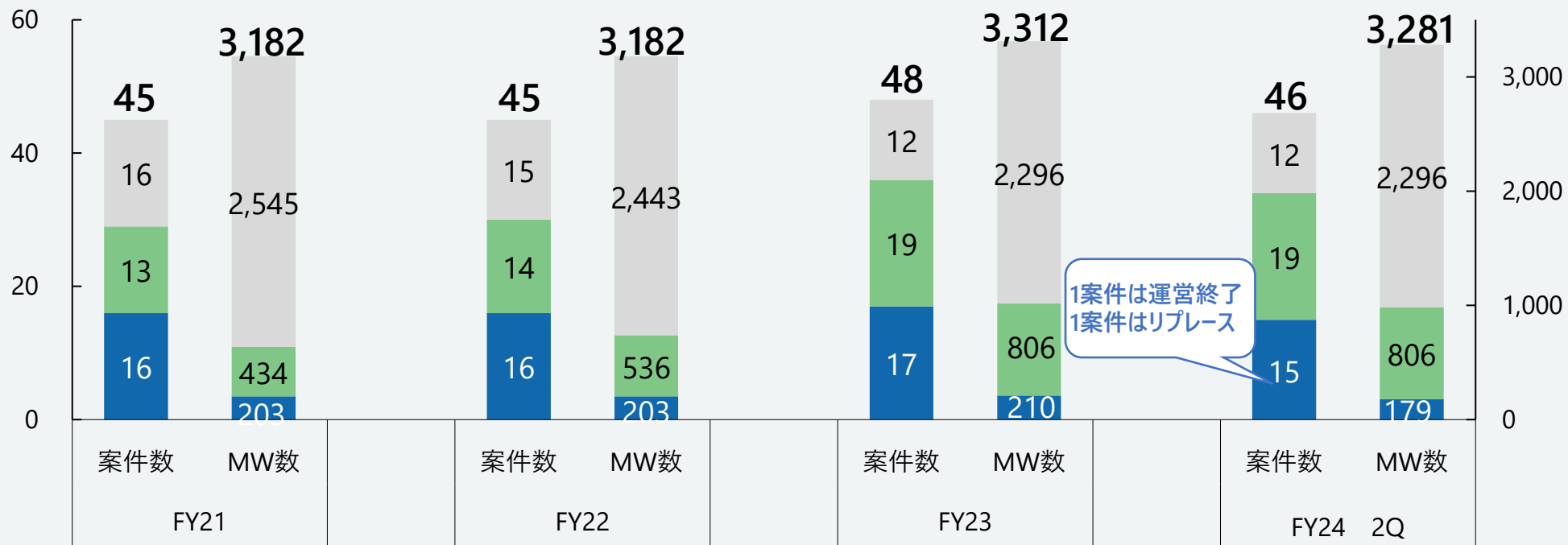
インフラ運営  
日本風力開発（連結）

舗装  
前田道路（連結）

機械  
前田製作所（連結）

### 3-2-1. 日本風力開発の運営中および開発中案件の推移

- FIT/FIPを取得し、各案件の開発を着実に進めている
- FY24 2Q時点ではFY21比でFIT/FIP取得済案件の開発が約370MW増加しており、今期も案件の確度を上げる取り組みを継続する



【凡例】



風力発電所の開発プロセス

FS調査	開発 (調査・各所協議・設計等)	建設	運営・保守
風況調査 許認可調査 地元事前協議など	用地・許認可取得 (FIT/FIP取得含) 環境アセスメント 電力会社手続き (系統連系) 工事計画届	土木工事 風車組立工事 電気設備工事	運営 点検・保守 遠隔監視・制御

参考：日本風力開発(株)HP 風力発電までの流れ：<https://www.jwd.co.jp/development/#flow>

### 3-2-2. 日本風力開発の取り組みプロジェクトの状況

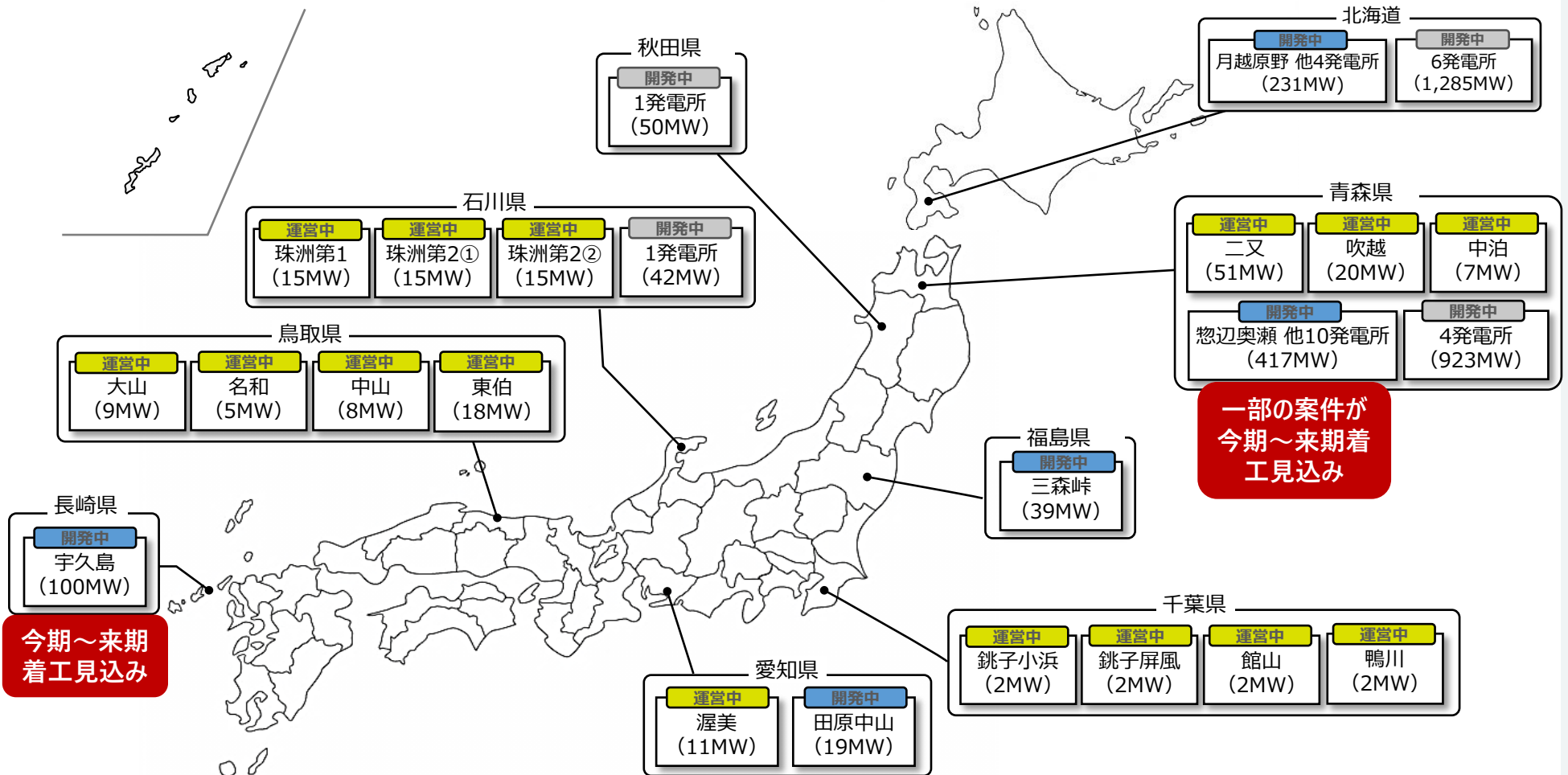
#### POINT

- ✓ 開発から運営まで、風力事業のすべてのフェーズを自社グループで対応
- ✓ 地域との共生を第一に、常に地域と対話をしながら開発を推進

運営中  
**180** MW

開発中 (FIT/FIP取得済)  
※落札済案件含  
**800** MW

開発中 (入札予定  
・非FIT/FIP)  
**2,300** MW



建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

## セグメント別ハイライト

建築  
前田建設

土木  
前田建設

インフラ運営  
前田建設（連結）

インフラ運営  
日本風力開発（連結）

舗装  
前田道路（連結）

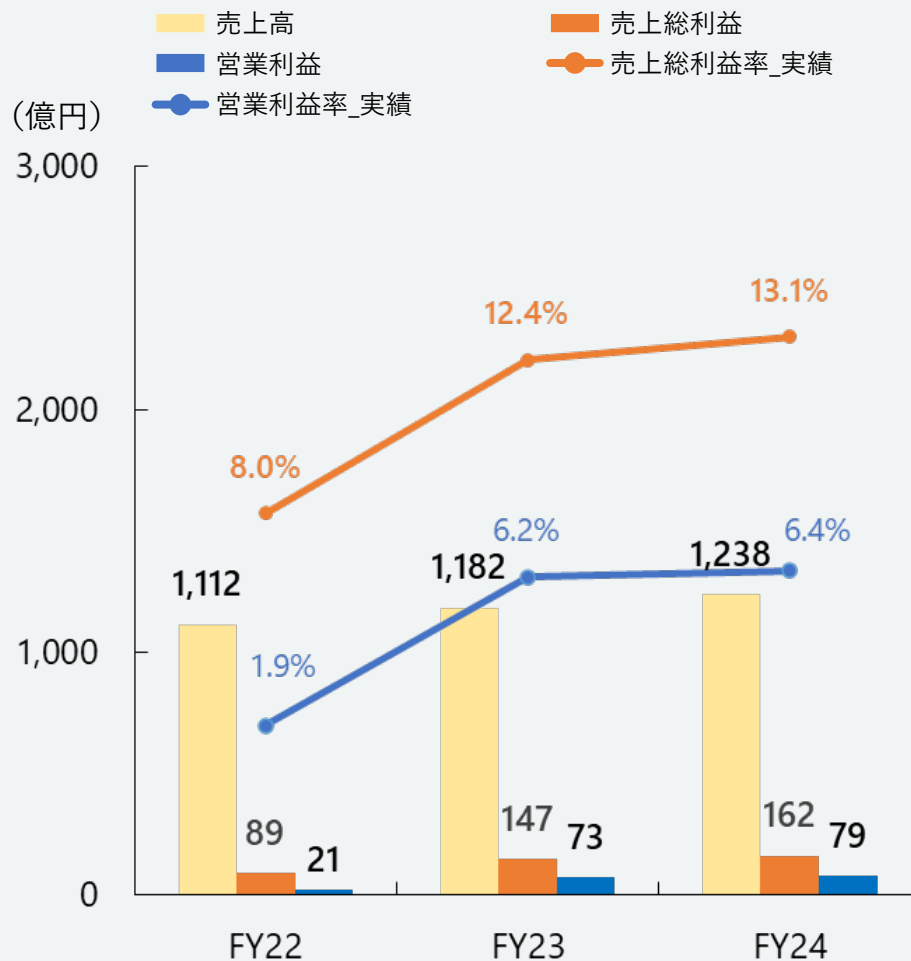
機械  
前田製作所（連結）



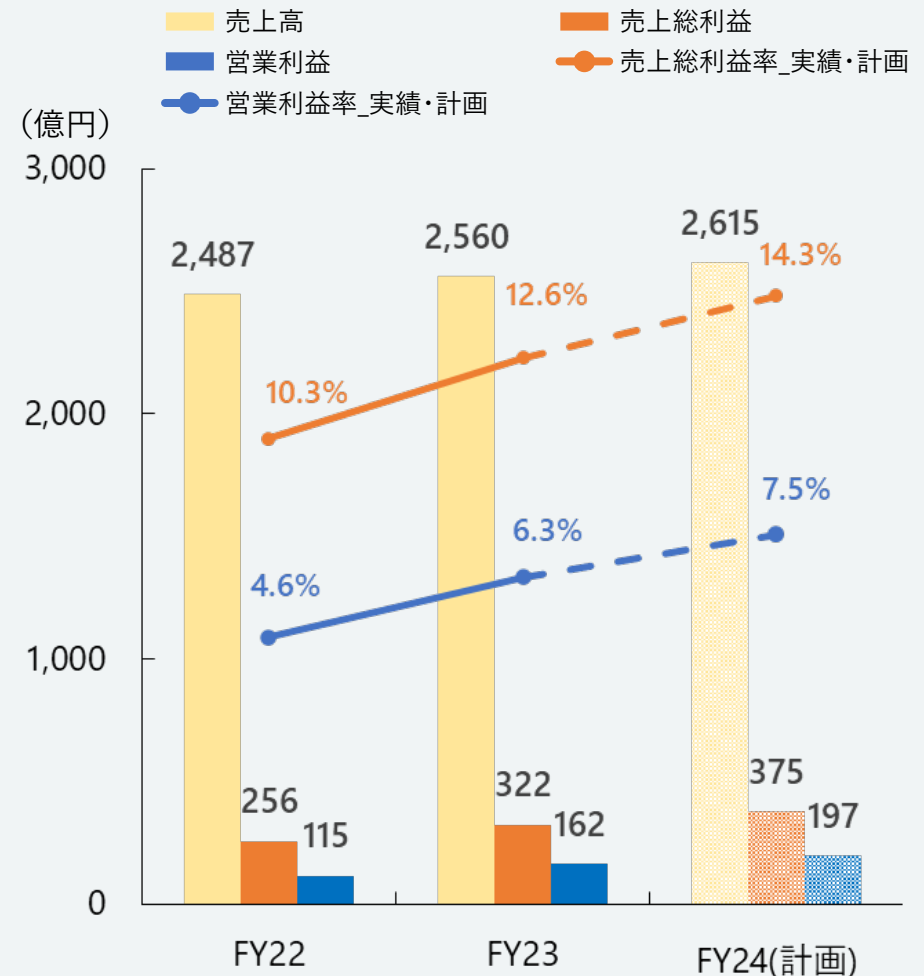
## 4-1. 【前田道路 連結】 売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY24 2Q 主に建設事業における、豊富な繰越工事により**前年同期比増収増益**
- FY24通期 建設事業における受注時利益率の更なる改善  
製造販売事業においては適切な販売単価を設定することで、**通期計画達成**の見込み

## 第2四半期



## 通 期※



※上記数値は、前田道路の従来の連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない

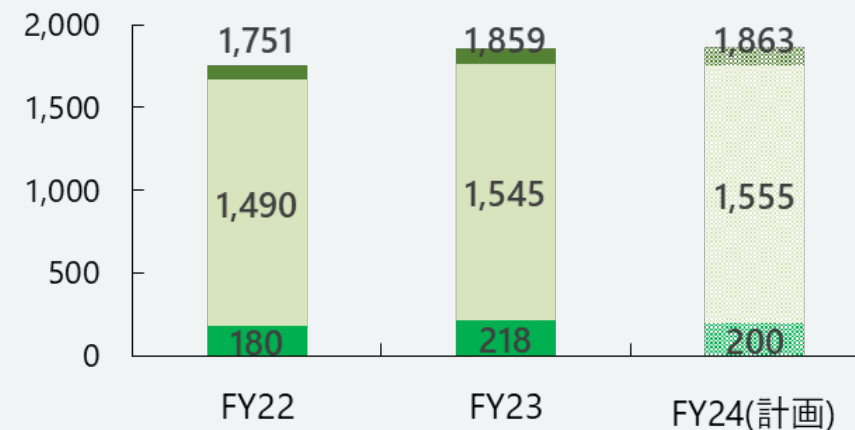
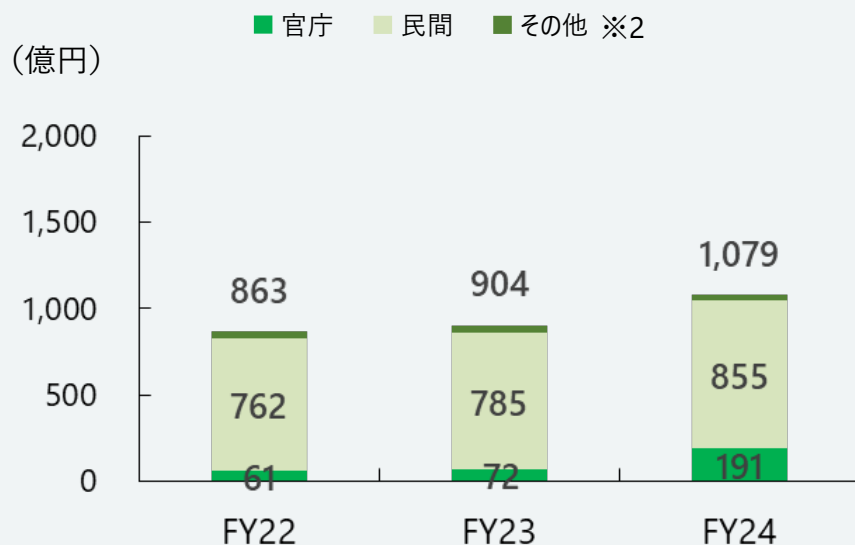
## 4-2. 【前田道路 連結 建設事業】 受注高、売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY24 2Q 豊富な繰越工事、および受注時利益率の改善により**前年同期比増収増益**
- FY24通期 受注時利益率を重視した営業活動を継続し、利益率向上を目指す

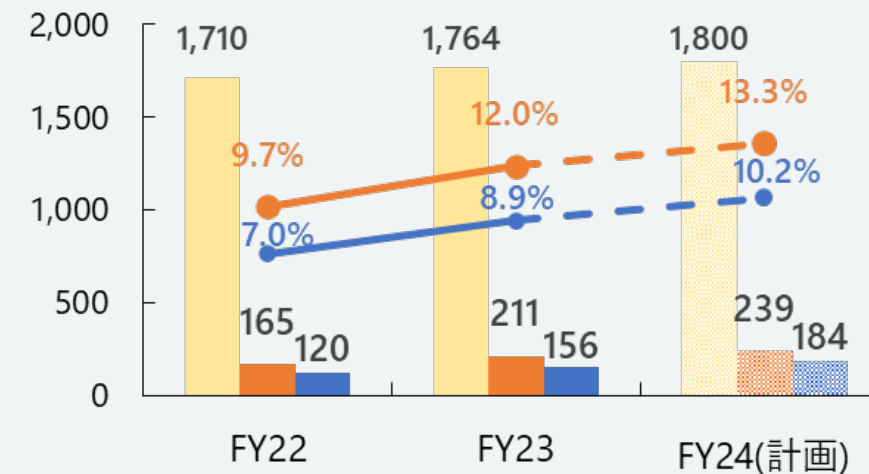
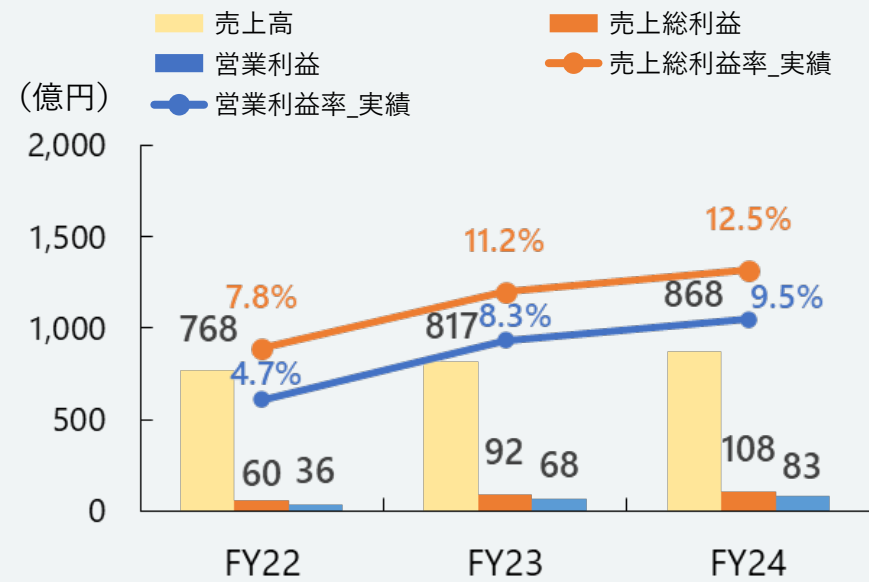
第2四半期

通期

### 受注高※1



### 売上高と売上総利益※1



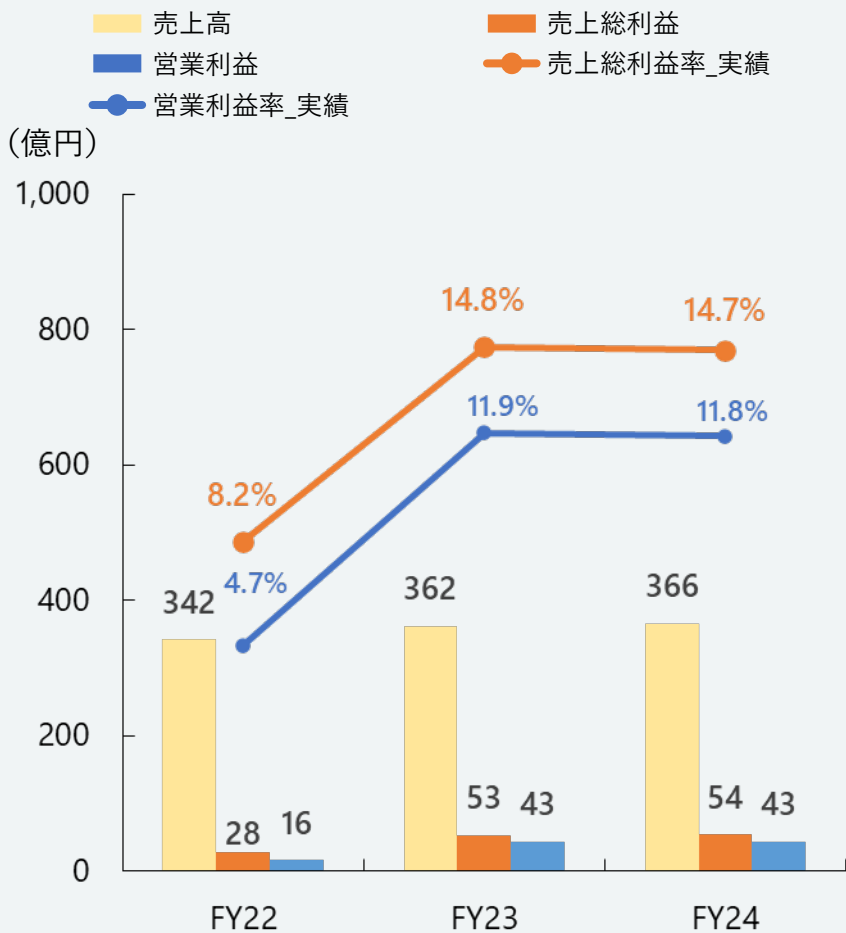
※1 従来の前田道路の連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない

※2 その他：関連会社の受注高（主に官庁工事）及びセグメント内取引消去高

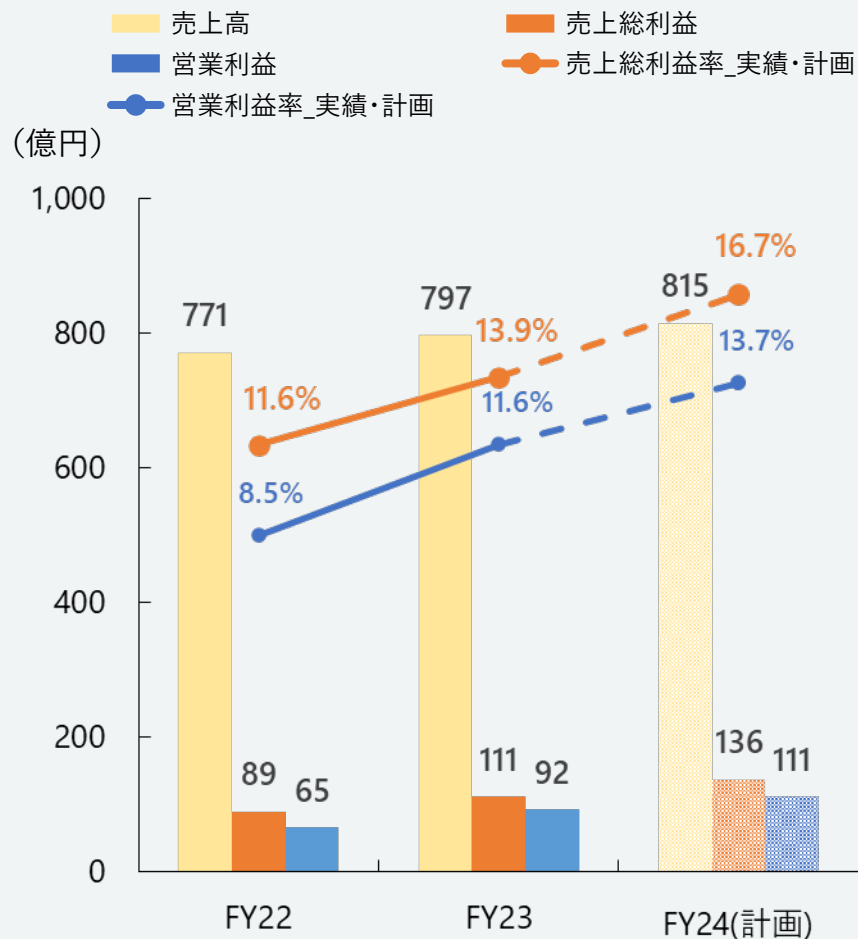
建築  
土木  
インフラ・MK  
インフラ・JWD  
舗装  
機械

- FY24 2Q 主に第1四半期において原材料費高騰の影響を受けたものの、第2四半期以降は価格転嫁も進捗し改善傾向
- FY24通期 適切な合材販売単価の維持と破碎事業の採算性向上により、利益率の改善に努める

第2四半期



通 期\*



※上記数値は、前田道路の従来連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない

**土木工事業をはじめ総合警備業、建設機械レンタル業、運送業、舗装工事業を展開する株式会社大晃ホールディングスを子会社化しました**

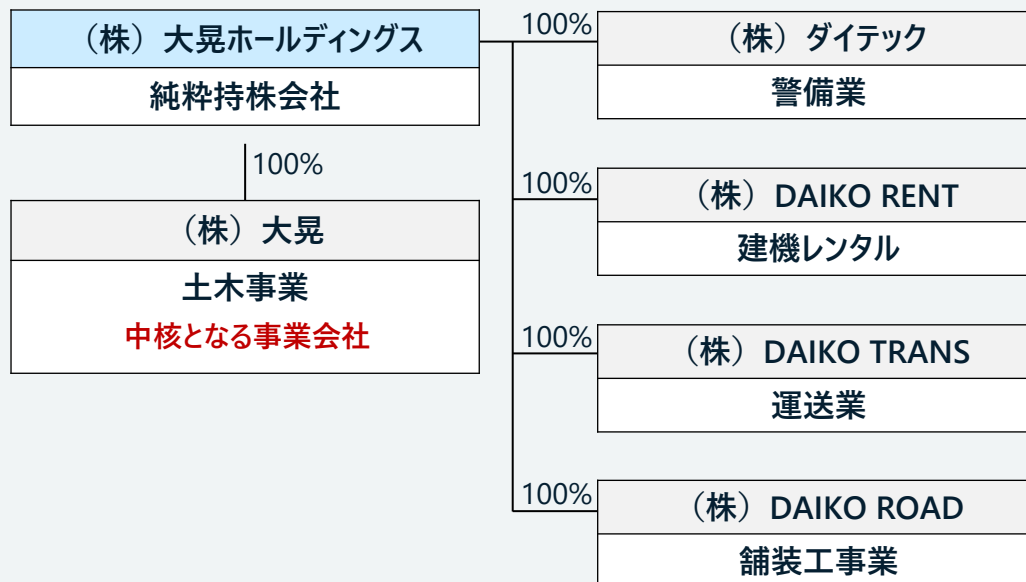
**目的**

- 東海エリアをはじめとした、**マーケットシェアの拡大**
- 大晃の豊富な事業展開を活かした、**施工および販売体制の強化**

■ 会社概要

名称	株式会社大晃ホールディングス
代表者	代表取締役 富永 智広
所在地	岐阜県安八郡輪之内町中郷新田2621-1
設立	2004年6月
資本金	30百万円
従業員数	140名

■ 組織体制



■ 大晃および周辺拠店



## セグメント別ハイライト

建築  
前田建設

土木  
前田建設

インフラ運営  
前田建設（連結）

インフラ運営  
日本風力開発（連結）

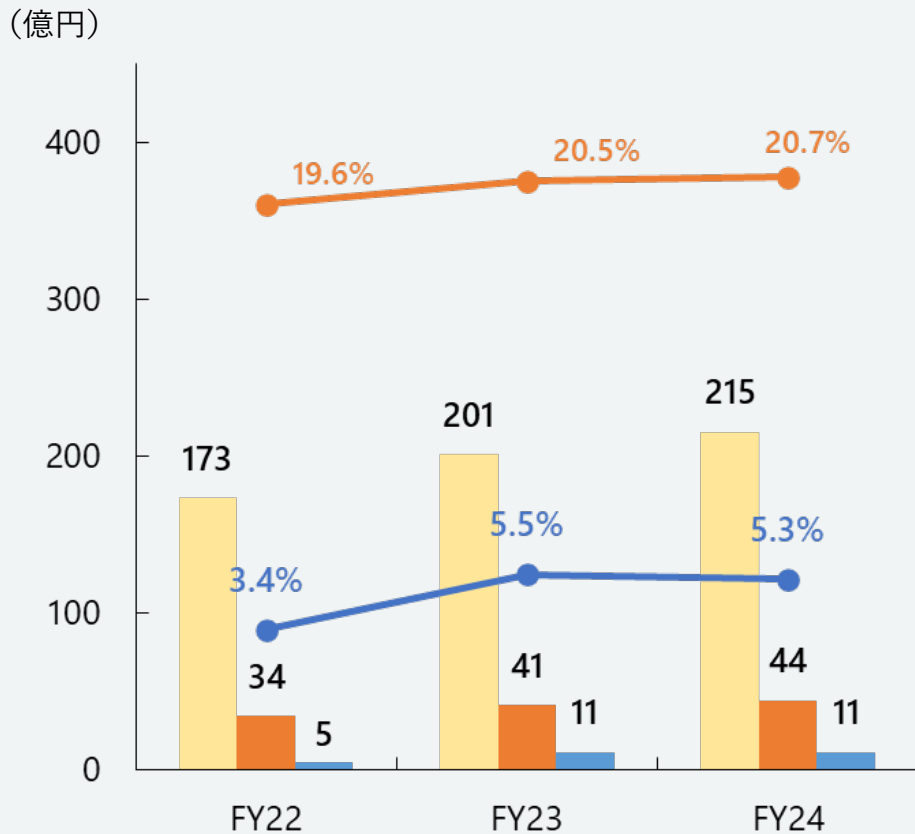
舗装  
前田道路（連結）

機械  
前田製作所（連結）

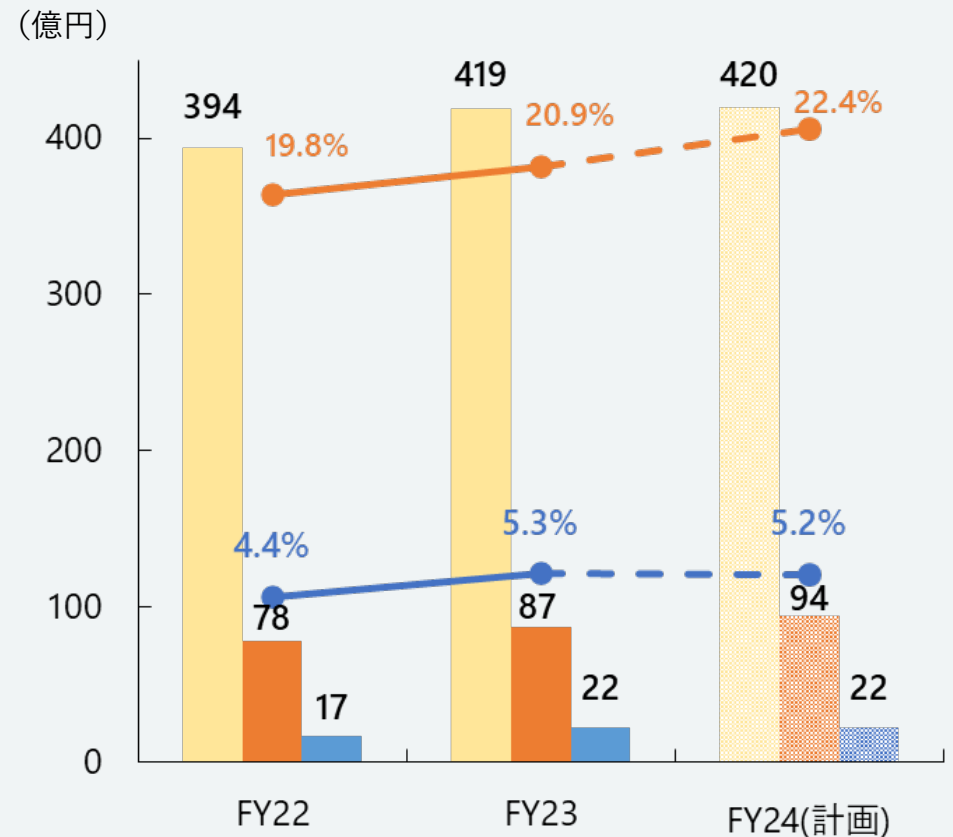
5-1. 【前田製作所 連結】 売上高、売上総利益、営業利益の推移

- FY24 2Q コマツ製品及び、クローラクレーンや個別受注製品を中心に自社製品の販売が堅調に推移し、**前年同期比 増収増益**
- FY24通期 受注および市況状況から売上高は前年並み、コスト低減や価格改定により 売上総利益は増加を見込む

第2四半期



通 期\*



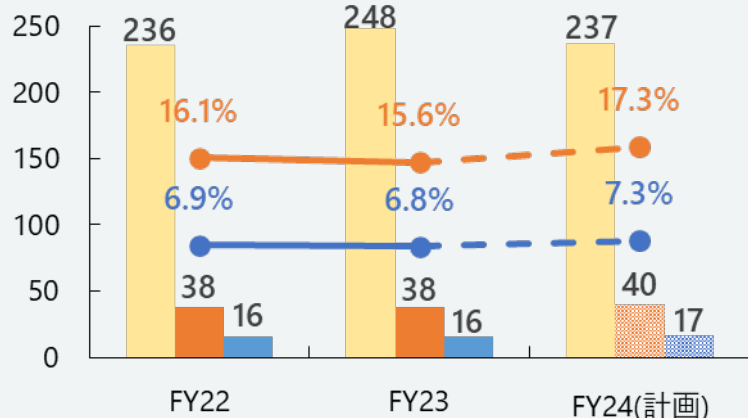
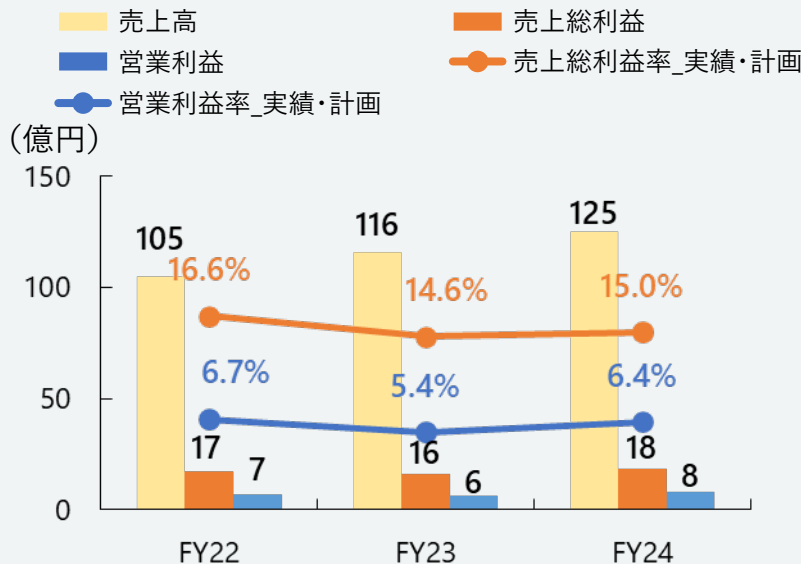


- FY24 2Q 建設機械では、大型機械の売上伸長が大きく寄与し、**前年同期比 増収増益**  
産業・鉄構機械等については、クローラクレーンを中心に堅調に推移し、原価高騰も、適正な価格の転嫁により**前年同期比 増収増益**
- FY24通期 市場環境は順調に推移しており、**通期計画は達成**する見込み

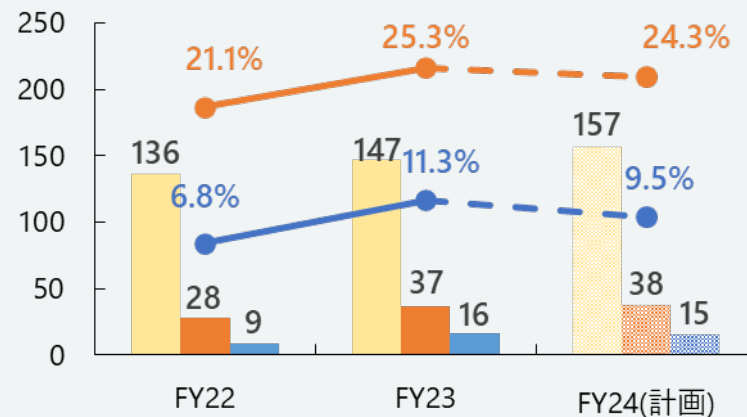
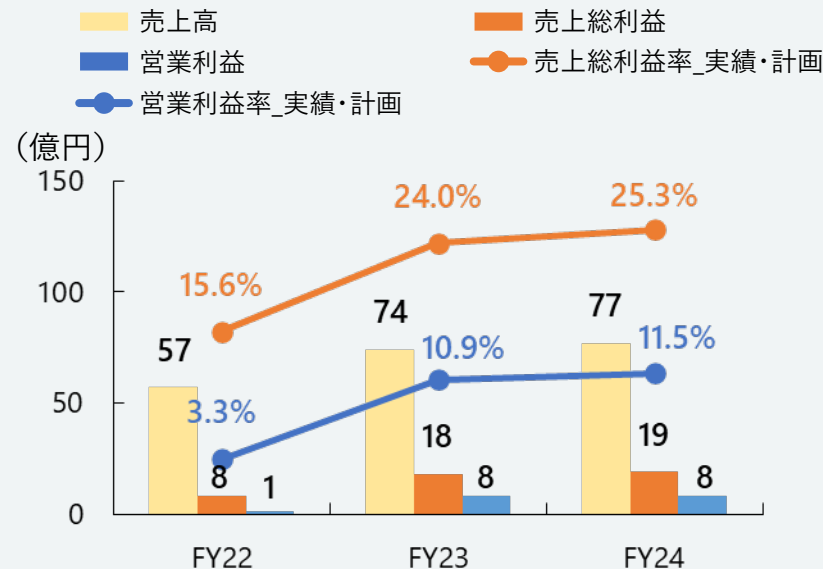
第2四半期

通期

建設機械※2



産業・鉄構機械等※3



※1 機械セグメントの内、主要事業である建設機械事業、産業・鉄構機械等事業の数値  
※2 コマツ製品の販売・サービス・レンタルを主体とした事業

※3 クレーン等自社製品の設計・製造・販売を主体とした事業

建築

土木

インフラ・MK

インフラ・JWD

舗装

機械

## クレーンのブームなどを製作している 株式会社岩下製作所 を子会社化しました

### 目的

- ✓ 相互の技術力を結集することにより、市場における**競争力の強化**を目指す

### 効果

- ✓ ブームの安定的確保
- ✓ 新規開発・マイナーチェンジ等へのスピードアップ
- ✓ ブーム製作における技術をいかした新製品の創出

#### 岩下製作所

所在地：長野県上田市長瀬1050番地7

設立：1973年10月5日

資本金：10,000,000円



#### ●現在の主な取引品目例



# 業績数值

---

# 1. 前田建設【個別】 FY24 2Q実績と通期計画（インフラ運営のSPCは含まず）

INFRONEER Holdings Inc.

(億円)

		FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	前年同期比	FY24通期計画	進捗率
売上高		1,901	2,022	121	4,584	44.1%
建築	計	1,068	1351	283	2,985	45.3%
	国内	1,066	1318	252	2,925	45.1%
	海外	2	33	31	60	55.4%
土木	計	825	661	△ 164	1,503	44.0%
	国内	822	660	△ 162	1,502	44.0%
	海外	3	1	△ 2	1	60.0%
インフラ運営		0	1	1	81	1.7%
不動産		8	8	0	15	54.5%
売上総利益		307 (16.1%)	243 (12.0%)	△ 64	681 (14.9%)	35.7%
建築	計	66 (6.2%)	102 (7.5%)	36	313 (10.5%)	32.4%
	国内	66 (6.2%)	98 (7.4%)	32	307 (10.5%)	32.0%
	海外	0 —	3 (10.1%)	3	6 (10.0%)	55.8%
土木	計	238 (28.8%)	136 (20.6%)	△ 102	280 (18.6%)	48.6%
	国内	237 (28.8%)	136 (20.6%)	△ 101	280 (18.7%)	48.6%
	海外	0 —	△ 0 —	△ 0	△ 0 (-25.0%)	6.9%
インフラ運営		△ 0 (0.0%)	1 (91.0%)	1	81 (100.0%)	1.5%
不動産		3 (37.5%)	4 (49.4%)	1	7 (46.7%)	57.7%
一般管理費		161 (8.5%)	180 (8.9%)	19	358 (7.8%)	50.3%
営業利益		145 (7.6%)	63 (3.1%)	△ 82	323 (7.0%)	19.4%
経常利益		163 (8.6%)	84 (4.1%)	△ 79	339 (7.4%)	24.7%
当期純利益		115 (6.0%)	67 (3.3%)	△ 48	248 (5.4%)	26.8%



## 2. 前田道路【連結】 FY24 2Q実績と通期計画

INFRONEER Holdings Inc.

(億円)

	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	前年 同期比	FY24 通期計画	進捗率
売上高	1,182	1,238	56	2,615	47.4%
建設事業	817	868	51	1,800	48.2%
製造販売	362	366	4	815	44.9%
その他	3	4	1	-	-
売上総利益	147 (12.4%)	162 (13.1%)	15	375 (14.3%)	43.2%
建設事業	92 (11.2%)	108 (12.5%)	16	239 (13.3%)	45.3%
製造販売	53 (14.8%)	54 (14.7%)	0	136 (16.7%)	39.5%
その他	1 (42.2%)	0 (4.4%)	△ 1	-	-
一般管理費	74 (6.2%)	83 (6.7%)	10	178 (6.8%)	46.9%
営業利益	73 (6.2%)	79 (6.4%)	6	197 (7.5%)	39.9%
経常利益	75 (6.3%)	80 (6.5%)	6	199 (7.6%)	40.4%
当期純利益	52 (4.4%)	53 (4.3%)	1	132 (5.0%)	40.4%

### 3. 前田製作所【連結】 FY24 2Q実績と通期計画

INFRONEER Holdings Inc.

(億円)

	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	前年 同期比	FY24 通期計画	進捗率
売上高	202	215	13	420	23.9%
建設機械	116	125	9	237	26.8%
産業・鉄鋼機械等	75	77	2	157	19.7%
介護用品・その他	11	13	2	25	23.1%
売上総利益	41 (21.2%)	44 (20.5%)	3	94 (22.4%)	21.9%
建設機械	17 (16.0%)	18 (14.4%)	1	40 (17.3%)	22.4%
産業・鉄鋼機械等	18 (22.5%)	19 (27.7%)	1	38 (24.3%)	22.4%
介護用品・その他	6 (60.9%)	7 (49.0%)	1	14 (58.4%)	19.4%
一般管理費	30 (16.2%)	33 (16.5%)	3	72 (17.1%)	23.1%
営業利益	11 (5.0%)	11 (4.0%)	0	22 (5.2%)	18.1%
経常利益	12 (5.9%)	11 (5.2%)	△ 1	23 (5.5%)	22.7%
当期純利益	9 (4.8%)	8 (3.7%)	△ 1	15 (3.6%)	24.5%



#### 4. 日本風力開発【連結】 FY24 2Q実績と通期計画

INFRONEER Holdings Inc.

(億円)

	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	前年 同期比	FY24 通期計画	進捗率
<b>売上高</b>	—	20	—	87	22.6%
開発	—	8	—	64	12.2%
O&M	—	10	—	20	50.5%
その他	—	2	—	4	51.1%
<b>売上総利益</b>	—	3 (13.0%)	—	55 (62.6%)	4.7%
開発	—	6 (80.9%)	—	44 (68.4%)	14.4%
O&M	—	△ 5 —	—	10 (51.6%)	—
その他	—	1 (38.6%)	—	1 (24.9%)	79.3%
<b>一般管理費</b>	—	21 (106.4%)	—	39 (45.1%)	53.4%
<b>営業利益</b>	—	△ 18 —	—	15 (17.5%)	—
<b>経常利益</b>	—	△ 20 —	—	15 (17.7%)	—
<b>当期純利益</b>	—	△ 19 —	—	10 (11.2%)	—

## 5.主なグループ会社のFY24の2Q実績と通期計画

- 2Q実績は前年同期比減収減益だが、追加契約の獲得や一般管理費の見直しなどにより**通期計画の達成を見込む**

前田建設工業

(百万円)

連結子会社 (その他セグメント)	(株)エフビーエス ※1			フジミ工研(株) ※1			(株)JM ※2		
	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画
売上高	6,804	8,260	16,000	6,001	5,211	13,490	11,505	10,931	26,000
営業利益	8	138	250	192	-207	513	108	-190	600
経常利益	18	152	267.3	242	-158	587	128	-164	620
当期純利益	15	117	174.8	242	-217	401	94	-162	340

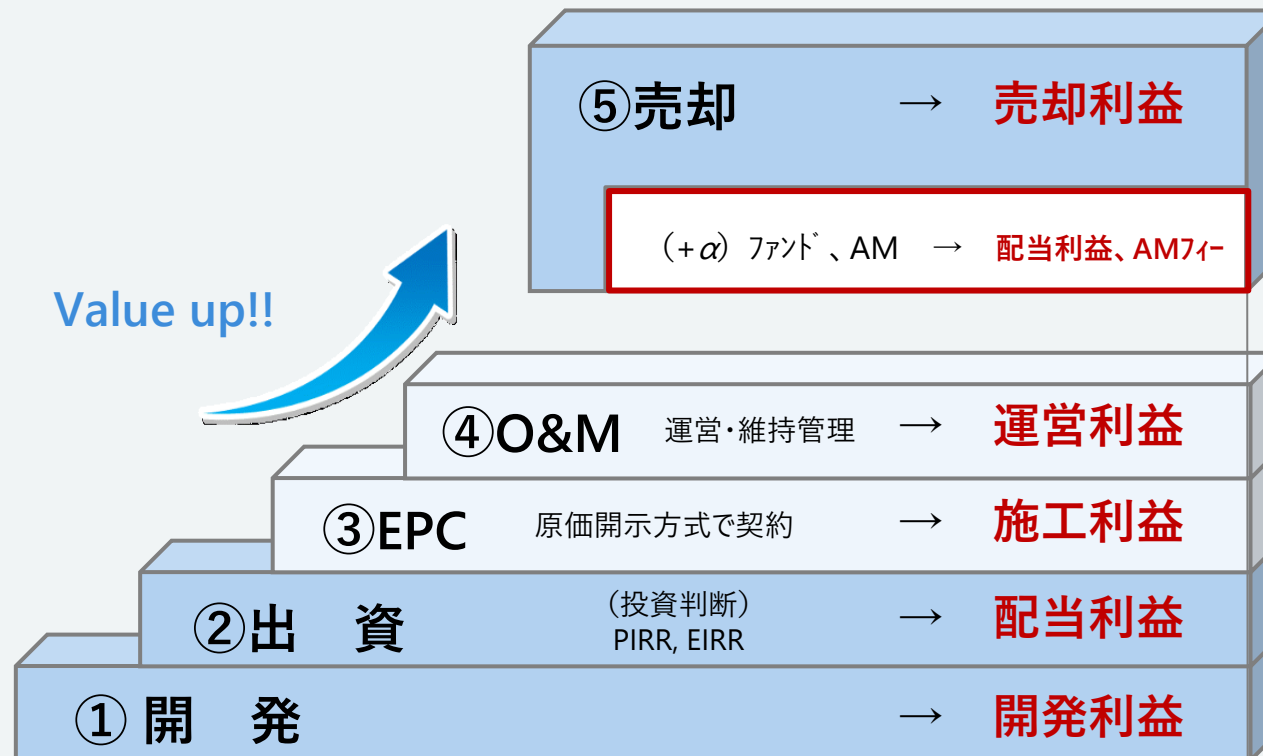
持分法 適用会社	東洋建設(株) ※2			光が丘興産(株) ※2		
	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画	FY23 2Q実績	FY24 2Q実績	FY24 通期計画
売上高	78,279	65,695	165,000	1,926	2,085	4,000
営業利益	3,253	2,323	10,000	391	438	610
経常利益	2,895	2,165	9,700	1,847	1,370	2,340
当期純利益	1,965	1,879	7,000	1,488	1,116	1,670

※1 日本基準・各社の連結

※2 日本基準・単体

## 【補足資料】 インフラ運営事業のビジネスモデル

- インフラ運営事業は、インフラの上流～下流（売却までを含める）までの全ての段階（①～⑤）で、収益を獲得するビジネスモデルである



- 事業から5段階 +  $\alpha$ で収益を獲得
- 施工ノウハウの強みを活かす（開発、EPC、O&M）

## 【補足資料】 インフラ運営セグメント「利益貢献額」と「セグメント利益」の違いについて

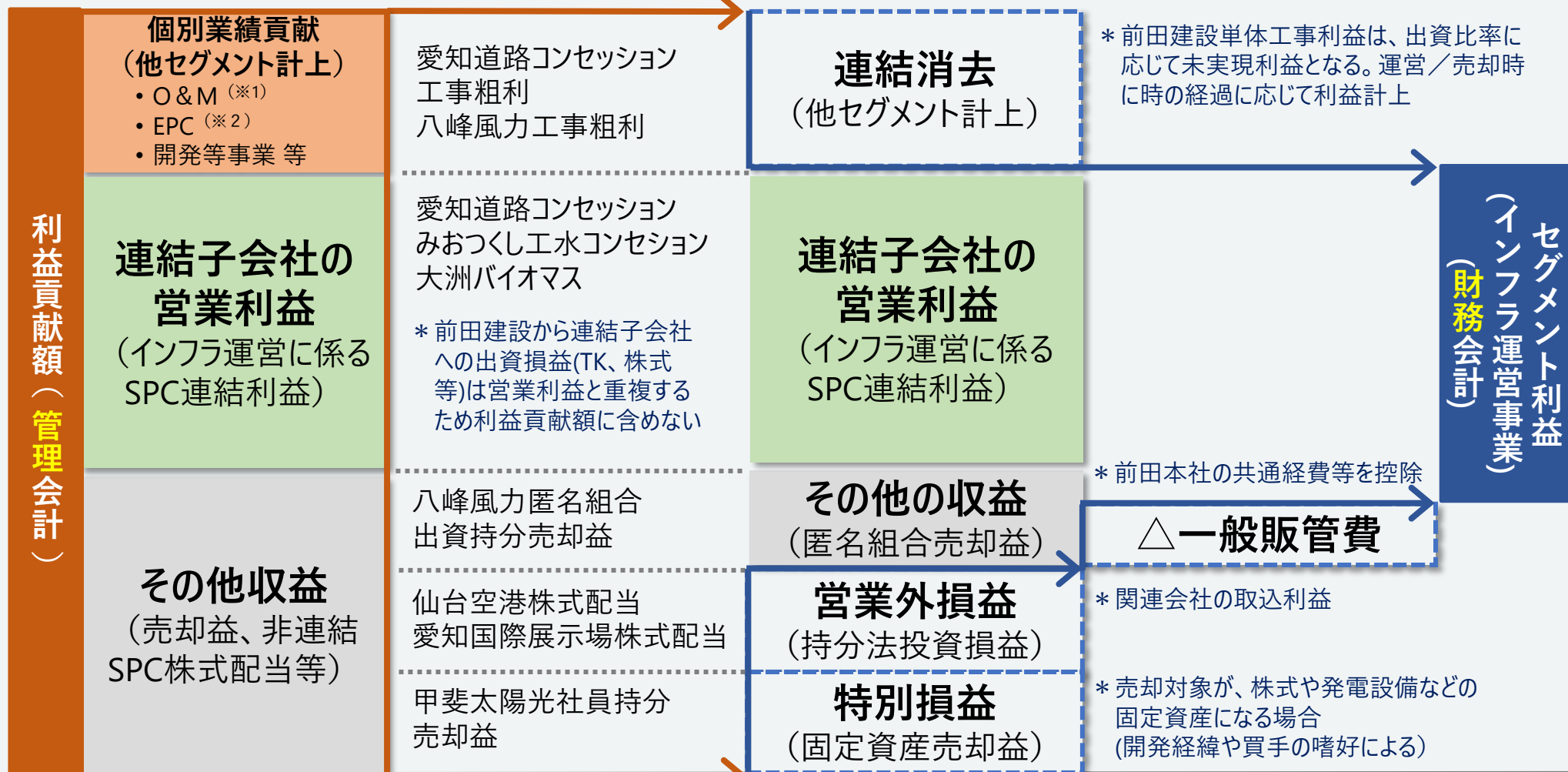
INFRONEER Holdings Inc.

- 「利益貢献額」は、連結子会社個別の工事粗利、その他収益、営業利益を合計した**管理会計上の実質的な貢献額**。出資比率や売却スキームにより、連結上の利益表示箇所が異なることを考慮したもの
- 連結財務諸表の「セグメント利益(インフラ運営事業)」は、利益貢献額に含まれる工事利益などを連結消去し、管理部門の共通経費を控除した**財務会計上の営業利益**で、営業外/特別損益を計上する前の値

セグメント利益との対応関係

(プロジェクト事例)

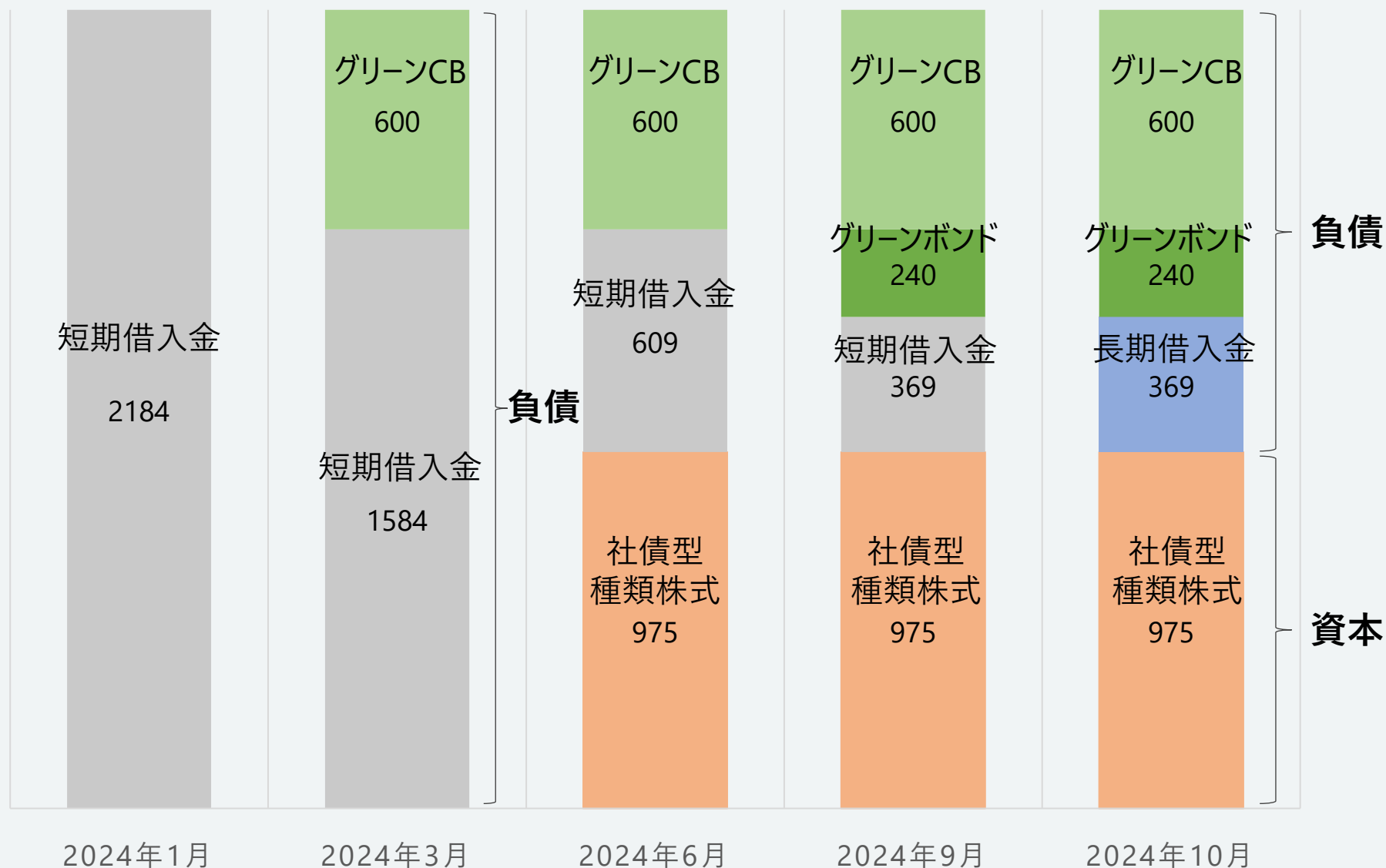
(財務会計上の整理)



※利益貢献額では、前田本社共通経費等の一般管理費を考慮していない

 ※1 O&M インフラ施設の運転保守管理業務等  
 ※2 EPC インフラ運営事業に伴う新築工事 大規模修繕工事等

【億円】



# 統合報告書2024～社会と共に価値を創り、未来を拓く、インフロニアの挑戦～ を発行しました

(発行日：2024年9月30日)

## POINT

- ✓ 社長兼CEO岐部が語る、インフラを取り巻く社会課題の解決策として、「脱請負」を掲げ未来の価値創出に取り組む考え方
- ✓ 設立当初から現在までを支えてきた社外取締役がそれぞれの視点から今後の展望を語る座談会
- ✓ 2024年1月から新たに加わった日本風力開発の買収の目的と新社長のメッセージ
- ✓ インフロニアが目指す社会を示した「インフロニアグループサステナビリティステートメント」を公開



## 統合報告書2024の構成

【Chapter1】トップメッセージ

【特集】社外取締役座談会

【Chapter2】価値創造ストーリー

【Chapter3】ビジネスモデル

【Chapter4】成長戦略

【Chapter5】サステナビリティ

【Chapter6】コーポレートデータ



統合報告書2024WEB版は記載の

QRコード/URLよりダウンロードください。

[https://www.infroneer.com/jp/sustainability/integrated\\_report/](https://www.infroneer.com/jp/sustainability/integrated_report/)





## News1

# B.LEAGUE イノベーションパートナーに就任 「バスケットボールとインフラを起点とした地方創生」への取組を開始

インフロニアHDは、本年7月、B.LEAGUE イノベーションパートナーに就任しました。2026年に向けB.革新を推進するB.LEAGUEと地域・市民とともに「バスケットボールとインフラを起点とした地方創生に寄与する事業・取組」を確立し、新たなインフラマネジメントの構築と日本のスポーツ界全体にインパクトを与えるイノベーションの実現を目指します。

初年度となる本年は、インフロニア設立3周年を記念にしたブランドムービーを公開したほか、2024年10月13日～12月31日の期間中、親子で楽しめるイベント「INFRONEER B.Hi TOUCH」を日本全国のクラブ主催の対象試合会場で順次開催しています。また、「U15、U18競技会の冠パートナー」にも就任し、バスケ・インフラの将来の担い手との接点強化・育成にも取り組んでまいります。



インフロニア3周年ブランドムービー(Youtube)



INFRONEER B.Hi TOUCH 特設サイト  
URL : <https://www.bleague.jp/b-hi-touch/2024/>

## News2

# infOinf株式会社HP「まなんで」に探究学習が登場 インフロニア・ホールディングス株式会社と連携

2023年7月にインフロニアグループの一員として設立され、「インフラを、より身近に。」をスローガンに市民参加とデジタルの新たな構築に向け、活動しているインフォインフ株式会社 (infOinf) は、2024年4月にHPを開設し、若年層やファミリー層を始めとする市民向けのファーストコンタクトの役割も担っています。

活動の1つとして、2021年より高等学校の必修科目となった「探究学習」の学習プラットフォームに全国の高校生の皆さんにインフラ・インフラサービスを学び、興味を持ってもらうため、インフロニアグループと連携し参加しています。さらに、探究学習の深掘り学習や市民の皆さまにも関心を持っていただくためにinfOinf公式HPの「まなんで」にインフラに関わる社会問題や解決策を学べる『キャレたんのインフラ講座』と、インフラに関わる職業を体験できる『キャレたんの職業体験』の2つのコンテンツをご用意しました。インフロニア公式HPキャレたんと共に、インフラをもっと身近にしていきたいと思います。ご家族やご友人と一緒に楽しみいただけたら幸いです。



▲公式HP



▲まなんで

## News3

# Kibe-log 岐ベログ

インフロニア・ホールディングスが何を考え、どういう社会の実現を目指しているのかを全てのステークホルダーにお伝えるため、社長の岐部が考えていることを発信していきます。



岐ベログ

岐ベログURL : <https://www.infroneer.com/jp/company/topblog.html>

### ～バックナンバー～

- 第8回 : 日本のインフラに必要なアベイラビリティ・ペイメント
- 第9回 : インフロニアがめざすデジタルの世界
- 第10回 : チャレンジする社風
- 第11回 : ヘルメット時代に学んだ技術と金融の融合
- 第12回 : 仕事の自由と説明責任
- 第13回 : 日本風力開発を買収した理由
- 第14回 : バリュエーション (価値評価) の裏側にある思想

BLANK

**【注意事項】**

本資料に記載されている業績数値は、決算短信の数字を億円単位とし、四捨五入しております。  
また、業績計画等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む  
Challenge the status quo

 **INFRAFRONTIER Holdings Inc.**